国士舘大学
第1回 FD研修会
『カリキュラムの可視化マップ作成研修会』

平成24年12月22日（土）13時00分～17時20分
世田谷キャンパス 世田谷校舎
6号館 3階 6301教室

国士舘大学
FD推進室

目　　次

開会のことば …… 01
副学長・ＦＤ委員会委員長　　磯辺　武雄

挨　　拶 …… 02
国士舘大学　学　長　　三浦　信行

趣 旨 説 明 …… 03

第 1 部　カリキュラムマップ作成方法
マップ作成方法説明 …… 04
『カリキュラムマップ作成 ワークショップ』
愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 副室長 准教授 佐藤　浩章氏

説 明 資 料
カリキュラム・マップ作成 ワークショップ　　佐藤　浩章氏 …… 14

第 2 部　カリキュラムマップ作成
政経学部　政治学科 …… 21
政経学部　経済学科 …… 22
体育学部　体育学科 …… 23
体育学部　武道学科 …… 24
体育学部　スポーツ医科学科 …… 25
体育学部　こどもスポーツ教育学科 …… 26
理工学部　理工学科　機械工学系 …… 27
理工学部　理工学科　電子情報学系 …… 28
理工学部　理工学科　建築学系 …… 29
理工学部　理工学科　都市ランドスケープ学系 …… 30
理工学部　理工学科　健康医工学系 …… 31
理工学部　理工学科　基礎理学系 …… 32
法学部　法律学科 …… 33
法学部　現代ビジネス法学科 …… 34
文学部　教育学科　教育学専攻 …… 35
文学部　史学地理学科　考古・日本史学専攻 …… 36
文学部　史学地理学科　東洋史学専攻 …… 37
文学部　史学地理学科　地理・環境専攻 …… 38
文学部　文学科　日本文学・文化専攻 …… 39
２１世紀アジア学部　２１世紀アジア学科 …… 40
経営学部　経営学科 …… 41

講　　評 …… 43

閉会のことば …… 45
ＦＤ委員会副委員長　　加藤　直隆

開会のことば

副学長・FD 委員会委員長
磯辺　武雄

皆さんこんにちは。今日はあいにく冷たい雨の中、しかも年末でお忙しい中を各学部等の関係者をはじめ、多くの方々のご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日の研修会の講師として、愛媛大学教育・学生支援機構の佐藤浩章先生をお招きしてございます。佐藤先生のプロフィールにつきましては、後ほど担当者のほうからご紹介がございますので、ここでは省略をさせていただきます。佐藤先生には２年前の第４回シンポジウムにおきまして、「学士課程教育体系化のステップ～３つのポリシー策定と一貫性構築～」という題目で基調講演をいただいております。本日はそれに関連する研修内容にもなるかと思いますが、今回は、そうしたことを含めてお話をいただくということでございます。佐藤先生には、この年末のお忙しい中を快くお引き受けくださいましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、もうすでにご存じのように、平成 20 年 12 月には、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」というのが出されております。また、平成 24 年３月には同審議会大学分科会大学教育部会の審議のまとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」が出されていまして、さらに同年８月には、同審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が出されております。こうした一連の答申の内容を見ますと、大方二つの共通する点があるのではないかと私は見ております。

一つは、３ポリシーを明確にすることですね。DP、CP、AP を明確にする。もう一点は、従来の教育型である「教え込み型」といいますか、パッシブ・ラーニングからアクティブ・ラーニングを促す。しかも質の高い学士課程教育への質的転換を行うという、このことが今一番答申で求めている内容ではないかなと見ております。このことは換言すれば、DP、CP、AP に即したカリキュラムの充実、そして、科目間あるいは教員間の連携のもとに、どういうふうに教育をマネジメント化していくかということですね。この教育のマネジメント化というのは、まさに今、学士課程教育の喫緊の課題であろうかと思っております。

そういう意味で、先般のこうした一連の中央教育審議会の答申を踏まえて、その対応の一環として、過日、皆さん方にカリキュラムチェックリスト作成をお願いし、そしてそれをご提出していただいたところでございますけれども、本日はそれに基づきながら各学科、学系、そして専攻ごとにカリキュラムの体系化といいますかね、見える化、学生にとっても見える、あるいは可視化できる、カリキュラムマップ作成の研修をしていただくということでございます。本日の研修を通して皆さん方をはじめ、全教職員が開講されている現行のカリキュラムについての見直し、あるいは、これからのカリキュラムの体系化にカリキュラムマップを活用していただければ、本日の研修の意義も大きいものがあるのではないかと思っております。

限られた時間ではございますけれども、今日半日よろしくお願いいたします。これをもちまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

挨　　拶

国士舘大学　学長

三浦　信行

こんにちは。年末の、また雨の降る土曜日にも関わらず大勢の先生方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただ今、磯辺 FD 委員長 (副学長) から話がありましたように、中央教育審議会や様々な機関で高等教育の効果をどう向上させるのかが議論されております。このことはご承知の通り、少子化の影響から大学の大衆化が進み、多様な学生が入学してくる中で、いかに学生に付加価値を付けて卒業させ社会に送り出していくのか。その意味で教育方法の取組についての検討と実施が大きな課題となっています。

今日は、本学 FD 委員会が企画立案しました FD 研修会「カリキュラムの可視化マップ作成研修会」を開催することになり、特に研修会は本学で初めての試みであり大変期待しております。

研修会にあたり、愛媛大学の佐藤浩章先生には大変お忙しい中、講師として駆けつけていただき、心より御礼申し上げます。

本研修は、学士課程の構築を目指し、各学部が定めている教育研究上の目的達成のため、各学部の教育課程の体系化を再確認する大変良い機会でもあります。各学部のカリキュラムがどのように組まれ、そしてどのように体系化されているのか。そしてそれがどう可視化することが学生にとって分かりやすいのか。この研修会が第１回目でありますが、これを契機として全学の各先生方に浸透していけば、学修効果が大いに上がるのではないかと思っております。先ほど佐藤先生にお聞きしましたら、本学の対応は早いほうで全国でもそう遅くはないということでした。一部のところに止まらず、全学に波及効果を及ぼすことで FD 改革が前進していくものと考えます。

これからの教育界は、非常に競争の激しい時代であります。淘汰されることのないように、一つ一つ改革・改善点を押さえて、そしていち早くそれに対応していくことが、教育効果に繋がっていくことであり、今日の研修会も大きな意味を持っています。

実りある今日の研修会でありますことを祈りつつ、また、全学部にその好循環を醸成していくことを願いまして、挨拶に変えさせていただきます。

◆趣旨説明

今回、このような研修会を催すことになりました経緯と、講師である佐藤先生のご紹介をさせていただきます。

ここ何回かの中央教育審議会で、カリキュラムをより体系的に見直す必要性が示されました。本学のＦＤ委員会でもそのことを受けて、審議し、カリキュラムの体系化の一助になるために今回、「カリキュラムの可視化 マップの作成研修会」という企画をするに至りました。

カリキュラムマップのメリットを三つほど挙げてみますと、一つ目は、本学に進学をしようと思っている受験生。本学の学問の全体像を知ることができ、非常に役に立つだろう。二つ目は、在学している学生。特に新入生の学生たち。現在の履修登録のシステムでは、後期で新たに履修登録をすることができず、４月の段階で後期科目の履修登録もしなければならない。そのため新入生は、早々に後期科目のことを考え４月に履修登録をしなければいけない為､カリキュラムマップが相当に役に立つであろう。三つ目は、我々教員。我々は自分の得意分野を突っ走って授業をするというような傾向があり、そのようなことを避けるためにもカリキュラムマップでその専攻全体、学科全体のカリキュラムの全体像が見えていれば、シラバスを作成する際、あるいは今後の授業をする際にも、そこからあまり逸脱しないで授業ができるのではないかと思われます。

今回の研修の成果は後日、研修報告書として冊子の形でまとめられます。また、それのみにとどまらず、これを基礎にして、将来的には大学案内や大学のホームページに掲載していければいいなというふうに思っております。そのような点に関しても本日の研修会は、非常に重要な第一歩になると思います。

今回、講師を受け入れていただきました佐藤先生は、平成 22 年９月の第４回ＦＤシンポジウムの時にご講演をいただき、今回 12 月、もう年末も押し迫った時期であるにもかかわらずお引き受けを頂き、大変ありがたく思っております。それでは佐藤先生のプロフィールを簡単にご紹介いたします。

佐藤浩章先生は、1999 年の 10 月から 2000 年の６月までアメリカのポートランド州立大学の大学院研究学科研究科の客員研究員となられて、2002 年、北海道大学教育学部研究科教育制度専攻の博士課程を終えられました。同年の４月から愛媛大学の大学教育総合センター教育システム開発の専任講師となりました。そののち 2005 年に愛媛大学教育・学生支援機構教育開発センターから名称を教育企画室に変更して、その副室長に就任なさっております。また、2009 年の 10 月から 2010 年の４月までイギリスのキングス・カレッジ・ロンドン キングス・ラーニング・インスティテュートで客員研究フェローをなされていました。現在は、北海道大学高等教育推進機構の研究員としても活躍をされています。

先生の研究課題としましては、授業改善やカリキュラム開発、ＦＤ方法などの高等教育開発や、職場における効果的な能力開発技法などの職業教育学を研究なさっています。

それでは佐藤先生、よろしくお願いいたします。

ＦＤ委員会 第 4WG 座長

濱中　修

第１部

カリキュラムマップ作成方法

佐藤（さとう）　浩章（ひろあき）氏　略歴

〈学　歴〉

1995 年　北海道大学教育学部教育学科　卒業
1997 年　北海道大学教育学研究科教育制度専攻修士課程　修了
2002 年　北海道大学教育学研究科教育制度専攻博士課程　単位取得満期退学

〈職　歴〉

1999 年 10 月～ 2000 年 6 月　アメリカ合衆国 ポートランド州立大学 大学院教育学研究科 客員研究員
2002 年 4 月～ 2004 年 11 月　愛媛大学 大学教育総合センター 教育システム開発部 専任講師
2005 年 4 月～ 2006 年 3 月　愛媛大学 教育・学生支援機構 教育開発センター教育開発部 助教授
2006 年 4 月～現在に至る　愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授，副室長
2009 年 10 月～ 2010 年 4 月　イギリス キングス・カレッジ・ロンドン
キングス・ラーニング・インスティテュート

〈著　書〉

大学教員のための授業方法とデザイン (玉川大学出版部)
ＦＤプログラムの開発・実施・評価：ＦＤ担当者必携マニュアル第一巻 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

◆マップ作成方法説明

国士舘大学の皆さま、こんにちは。２年前にもお声をかけていただきまして、二度目の研修ということで、今回は、第１回のＦＤ研修会ということで、大変光栄に思っております。まずは三浦学長をはじめとします関係者の皆さま方に厚く御礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

年度末のお忙しい時期かと思います。そういう時期にこれだけの皆さまにお集まりいただいたというのは、さすが国士舘大学さんだなと思います。学長先生をはじめとしまして管理職の方や若手の先生方を含めて、この研修に参加していただく意義というのは非常に大きいものがあると思います。なかなか人が集まらないとか、数人の方だけが座られているという大学さんも結構あるんですけれども、その意味では本当にこの分野の実践面でリードされている大学の一つなんじゃないかなというふうに思います。

田中大臣が大学教育の質が低下しているんじゃないかという発言がありました。あの発言があってから朝日新聞の本社の記者と日経新聞の記者が私のところに取材に松山まで来ました。彼女の発言は、問題があったかもしれないけれども、質の低下ということについては結構多くの人たちが納得したのであって、大学では今何が起こっているんだという話でありました。

12 月 14 日の朝日新聞の記事で、愛媛大学は 100 時間の研修を新任の先生に課す、これを終身雇用の条件にするということを決めました。ですので､来年度以降はまずは仮採用期間に全員がそのテニュア･トラックに一回乗るんですが、５年間のうちに 100 時間の研修をきちっと終えないと終身雇用にしないという、これは一つの質保証の取り組みということでご紹介をさせていただきました。その他もいろんな大学さんがいろいろ動き始めています。

図らずも先ほどの田中さんの発言に対応するような形で大学が動き始めている。そういった認識をお持ちのトップの方がおられて、この研修を強く先導されているということで、大変私は感銘を受けております。

今日は、少しワークを重視して皆さんにはやっていただくということになりますので、前半の部分はそのワークをどうやって進めていったらいいのかという話をさせていただこうと思います。この前半部分のわたくしの研修では、実際に皆さん方が、お一人お一人がカリキュラムマップを作るという作業ができるようにお手伝いをさせていただければと思っております。

こちらは、復習というか２年前にわたくしがお話をさせていただいたものを一枚の図にしたものでございます。もし参加されていない方は改めて、初めてのお話かもしれませんけれども、前回お話させていただいたのは、この学士課程教育を体系化するという五つのステップということで、まず最初に目指すべき人材像ですね。三角形の頂点にあたりますけれども、どんな人材を国士舘大学さんは目指されるのか、各学部は目指されるのかということをしっかり決める必要があります。こういう目指すべき人材像がない大学というのはほとんどありません。これは、大学を設置をする段階で書くものでございますし、パンフレットにも載っております。

ところが、問題になっていたのがここですね。第２ステップのディプロマポリシー。いわゆるこれは最低限質保証ですね。国士舘大学の卒業生といった場合に、これだけの能力は確実に持っています。この能力を持っていない学生は外に出しませんという、ラインになります。ですからここは先ほどの三角形の頂点とここの間には少しギャップがあってもこれは構わないと考えます。国士舘大学さんが、建学の精神で目指されているものをすべての学生さんが身につけて外に出るというのは、これはなかなか

難しいですよね。しかしながらディプロマポリシーはやはり達成してもらわなければいけないと考え、各学部でお決めになったことだろうと思います。

そして、今度は三角形の底辺に移りますけれども、第３ステップとしてアドミッションポリシーですね。ここまでに、ディプロマポリシーまでに持っていくためには、時間はもう限られているわけですね。４年ないし６年のところで持っていかなきゃいけない。そうすると入口の段階ではこれだけの力を持ってなければいけないですよという方向性、受験生に対するメッセージがアドミッションポリシーだということになります。

AP と DP の間をつなぐのが第４ステップであるところのカリキュラムポリシーということになりまして、これはもう皆さんお決めになられたと。本学はこの AP で入ってきた学生さんを DP まで持っていく上で、このような順番で、このような科目を提供して学生の学習と成長を促しますよということですね。これを記載したものがカリキュラムポリシーです。文章でカリキュラムを表現するというのは非常に難しいので、特に高校生、あるいは在学生には分かりにくいので図示化しましょうと。図示化することで構成員の全体はどこを目指しているのか、何を学んでいるのかということを分かりやすくしましょうという形ですね。

ただ、これもこの後がありまして、今日はここまでできませんが、第５ステップとしては、これが本当にうまく機能しているのだろうかという、カリキュラムのアセスメントという段階があります。これは、一気にここまで行けませんので、今日はその手前の研修作業ということになり、カリキュラムポリシーの一部として考えていただければと思います。

今お話したことを、こちらはまた別な表現をしておりますけれども、国士舘大学さんはわたくしがこの前ご説明したようにこの DP、CP、AP を五つの領域に分けて記載をされているということであります。知識、理解から態度までここに書いてありますけれども、それぞれアドミッションポリシーの段階でどんなものが必要か。いわば出発点ですね。出発点というのは評価論で言うところの事前評価というところになります。この大学に入ってカリキュラムやプログラムを履修するにふさわしい能力を兼ね備えているかどうかということをチェックする段階です。そして、最終的なゴールは総括的な評価として、ディプロマポリシーに記載されています。この間で、中間地点で形成的な評価を授業、あるいは学年ごとに何度も何度も行っていくわけで、これを記載しているのがカリキュラムポリシーということになり、積み上がっていくわけです。

カリキュラムマップとは一体何かという話ですが、カリキュラムにおける授業科目間の系統性、関係性を図式化したフローチャート、ダイアグラムというふうに呼ぶ場合もあります。また、カリキュラムチェックリストをお作りになっていると聞いています。これは個々の科目の到達目標と学部・学科のディプロマポリシーとの関係を見るには有効なツールなんですが、カリキュラムチェックリストの問題点は、科目と科目の関係がちょっと分かりづらいんです。ですので、それを補うために今度はマップで示そうということなんです。心理学で言うところの図示化という行為に関しては、関心を高めるとか、

文章よりも図のほうが学生さんからすると気を引くことができる。注意力を高めるとか、あるいは記憶面でも残りやすいということが、昔から言われていることであります。

教育学で言うと、コンセプトマップという言い方のほうが馴染みがあるかもしれません。概念を地図で表すというものなんですけれども、元々は初等中等教育の段階で、先生方が授業をやられた時に、本当にこれを今日学生さんは理解したのかどうかということを確認する時に、「今日学んだことをマップにして書いてごらんなさい」、という言い方をするわけです。キーワード、例えば今日だったらカリキュラムマップを描いて、真ん中に文字を書いて、あとはどんな情報があなたの頭の中で記憶に残っているのかを書かせるという方法なんですが、高等教育分野においても少しずつこれが使われるようになってきております。

この大学のカリキュラムの科目と科目の関係をどんなふうに図示化するのかというのは、いろんな取り組みが行われております。例えば、これは徳島大学さんが作られたラーニングパスファインダーという工学の先生たちが作られたものなんですけれど、ちょっと分かりにくいかもしれませんが、ある特定の科目をオンライン上で呼び出しますと、その科目と関係のある科目がこんなふうに蜘蛛の巣のように出てくるというものなんですね。

デメリットとしては、結局これは今蜘蛛の巣みたいになっていますけど、学問全部のつながりを見せられるというのは、果たして学生にとって分かりやすいのだろうかと考えます。それから電子メディアは一般的に難しい。それから、全体を俯瞰できない欠点があると思いまして、わたくしはあえてこういうシステムにお金をかけて導入するのではなくて、かなりアナログな方法になりますが、今日ご紹介するカリキュラムマップ作成という方法を、皆さんで取り組んでみたらどうですかという提案であります。

さて、カリキュラムを考える上で重要になってくるのは、この学習順序という、表題には構成原理、体系化の構成原理というふうに書いてあります。我々は無意識のうちに授業においても順番を決めるわけです。何を最初に教えて何を後で教えるのか。ここに隠れた構成原理というものがあります。一般的には簡単なものをまず最初に教えて、複雑なものを後から教えましょうとか。それから、既知のものですね。既に知っているものから知らないものを教えていきましょうとか、結論から理由ですよとか、個別、一般、過去、現在、これは歴史の授業なんかもそうですね。それから全体、詳細なんていうことが一般的には言われております。

ただ、これは学習原理の研究を見ていると非常に面白いことを言われていて、これ『E-T-A/E-A-T/T-E-A』と書いてありますけれども、Ｅというのはエクスペリエンスですね。実体験、経験です。A: アウェアネスというのは気づきですね。そして、T: セオリーというのは理論づけということです。この三つをどの順番で学生さんに提示をすると学習が一番効果的なのかというのは、三つ、つまりＥＴＡの順番がいいという場合と、ＥＡＴのほうが順番がいい場合と、ＴＥＡの順番がいい場合と、これにはいろいろと考えられるわけです。皆さんご自身が教えられている授業は、どれが一番フィットするでしょ

うか。これは教えられている科目の内容とか、それから誰に教えている、学年はどの学年なのか。学生の学力はどうなのか。こういった状況によっていろいろ変わってきます。

よく言われているのは、例えば大学院生は学年が上になってくると、まずはきちんとセオリーから教えたほうが整理されて、知識をパッと教えやすいのでいいと。だけども同じような教え方で１年生に教えてしまうと、経験があまりない中で理論だけ言われてもぽかんとしている。だからまずは実体験をさせる。そして、理論づけをして気付かせるとか、あるいは経験をさせて気づかせてから理論づけをするとか、こういう順番がいいということが言われています。これを授業の話だけじゃなくてカリキュラムにおいてもお考えいただきたいということなんです。

皆さん方が今提供されている授業のよくあるパターンは、最初の学年で概論を教えましょう。概論というのは、一般的な話なんでしょうかね。そして、それから個別の専門の話を教えましょうと、こういう流れになっていますけど、本当にその流れで効果的な学習が学生さんに流されているのか。これは学生によく聞くと、概論みたいなものはむしろ後ろに持っていってほしいという学生もいますよね。まずは最初に個別の話をしてもらって、それがどういうふうに位置づいているのかということを後で概説してほしいという学生さんもいたりします。これは一つの例なんですけれど科目の並べ方を考える時に、どうやったら学生さんにもっと効果的に学ばせることができるかというその原理を重視してほしいということなんです。哲学と言ってもいいのかもしれません。

これが正解ということではなくて、いろいろなやり方があるので、これはもう国士舘大学の例えば教育学部の何々学科の学生にとってはこの順番がいいということは言えますけれども、日本の大学生全体にとってこれがいいということは言えないので、皆さん方で、各学科で研究していただきたいテーマなんです。何が最も自分達の学生に相応しい並べ方なのかということを皆さんで議論をしていただきたいということです。

これから実際の作業をしていただきます。隣の部屋二つに分かれますけれども、テーブルにこの授業科目シールというものが置かれております。これは、皆さんの学科で開講されている全授業科目を宛名シールにプリント、印刷してあるものです。

これを、ポストイットにまず貼り付けていただきたいと思います。複数の複数のポストイットがあると思いますけれども、これも例えば青いポストイットに必須科目を貼るとか、選択科目を黄色に貼るだとか、これは学部によっておそらく色の使い方も違うと思いますので、そのあたりも各テーブルでお考えになってシールをお貼りください。貼り終えましたら、今度はいろんな所にペタペタ、ペタペタ貼ることができますので、模造紙の上に科目を時間軸で並べて、マーカーで関係を図示化していただきたいということです。出来上がった模造紙をこの教室に戻ってきていただき、学会のポスター発表のように壁に貼り、お一人は発表者として残っていただきますが、そのほかの方は他の学部・学科さんをご覧いただくという流れで行いたいと考えております。

これが実際に愛媛大学でやった時の作業の様子なんですけど、こんなふうになると思います。科目名が貼られたポストイットを「ああでもない、こうでもない」と言って先生方でいろんな形で書いていただくということになります。これは学問分野によって全然違うものになると思います。どんなふうに並べていただきたいかということですが、まず当然履修の時期ですね、時系列ということはどこかで意識していただかなければなりませんので、縦軸なり横軸なりどこかで学期を１学年、２学年、３学年、４学年ということを目盛りを作っていただく必要があると思います。それから当然分野、コンテンツですね。どんなコンテンツなのか。これは同類のものをまとめるような形になるのか、これはいろんなまとめ方があるかもしれません。その中でも基礎的な内容、応用的な内容、理論的な内容、実践、これは

一つの分け方の軸でございますけれども、こんな分類方法があるかなと思います。これらを図で描いたり、矢印でも色でも仕訳ができると思います。

あと、最終的に身に付く能力、ディプロマポリシーを定めておりますので、ディプロマポリシーにつながっているとか、それからそのディプロマポリシーを超えて、今度は卒業先が皆さんの学部・学科によってはかなり特定される学科コースがありますよね。職業領域ですね。そういう具体的なところがあれば、そこも示してあげると、三つのポリシーはそれぞれ第一読者がいます。先ほども話しました、カリキュラムポリシーというのは、まず現役の学生さんが読むものだと私は思っているんです。教職員も現役の学生さんも含めて現役の人たちが読みます。DP は受け入れ先の方たち、AP は高校生、受験生が主に読みますけれども、CP は、まずは現役の教職員と学生さんが見ますので、特に学生さんにとっては今学んでいることが将来とどう結びつけるのかと、この関連付けを理解することで学習欲求が高まりますので、見せてあげると効果があるのではないかなと思います。

心理学の方だったらご存じだと思いますけれども、熟達者研究というのがありましてね、プロの人とアマチュアの人って一体何が違うのかと。当然プロは知識量が豊富なんですよ。アマチュアは知識量が少ないんですけれども、もう一つ大きな違いは、プロが知識の構造を持っていると言われているんです。この時はどういうふうに反応すればいいかということがわかっているので、新しい状況が出てきた時にも対応ができると。我々は、授業を教えながら学生さんにはその分野のプロフェッショナルになっていただきたいわけですよね。文学なら文学のプロフェッショナルに少しでも近づいてほしい、アマチュアから近づいてほしい。だとすれば、メニューそのままじゃなくてこの構造を伝える必要があるということであります。いろんなパターンがあるので、これは後でご覧下さい。基礎、応用、こういうボックスで描いているのもありますし、四角、丸いのもあります。学問分野によって相当違いが出てくると思いますね。

皆さんのお手元の資料にはありませんが、実際作られたマップをいくつかご紹介していきたいと思います。こちらは理学部数学科です。非常に作業がスムーズでした。今日数学の方はおられますか？多分どこの大学でも同じじゃないかと思います。どこの国でもどこの大学でも、100 年、もう 200 年前から同じだと言っていました。直線的に流れていく、積み上げ型と言われている学問体系の場合は、このような形になるんじゃないかと思います。学年ごとでこうやって色分けをしたりとか、それからこれは非常にいいなと思うのは、読み手が学生ですから学生に対して例えば、「講義と演習で基礎を身につけます。頑張って全部履修しましょう」といった学生に対するメッセージが入っていますね。こういった余裕もあるマップができたことになります。

こちらは、工学部情報工学科です。プロですからね。サラサラサラッとやられていました。手書きは面倒くさいからパソコンでやらせてほしいとかでカタカタカタッとやっていました。ただ科目と科目の関連が非常に線で描かれていて、馴染みのある絵なんじゃないかと思います。

難しいのは文系のほうが難しくなってきます。こちらは学校教員養成課程のものです。ここの特徴は実践

科目というのがあって、それから省察科目というのがあって、振り返りをする科目があるんですけれども、実習しただけじゃなくてその実践を振り返るという科目があります。これがこの矢印が実はこういうふうにらせん状になっている。それを表現したかったと言っていたんですけれど、学問の構造としては積み上げというよりは振り返りをしながらだんだん上に上がっていくというイメージです。こういう学問もあるんですね。そしてそれぞれがDPの１、２、３、４、５、それぞれにどう関連しているのかというのを描いているということになります。

どんなマップを描いたとしても、ある種の不完全燃焼感はあります。土台カリキュラムをマップにするというのは無理があるんです。ですから我々は文章とカリキュラムチェックリストとマップと、そういったものを組み合わせていろいろ作るんですけれども、パーフェクトなものはおそらく作れないと思います。しかし、できる限り皆さんが納得できるようなものを議論しながらお作りいただきたいと思うんです。

こちらは、文系の典型なんですが、科目を学生は好きに取っていく形です。たくさん出店して学生が好きに選びなさいと。で、淘汰されていいものは残るし、選ばれないものは選ばれないでいいと。だから人数が偏るわけです。これは、原理がないわけじゃなくて一つの市場原理という原理の観点なわけです。ただこの市場原理は先ほどのように増殖していきますから、ちょっと危険です。学習する側からも危険で、大学で学んだことは、構造が全然ないわけです。ただ科目、面白かった科目だけが残っていると、こういうことになるわけです。

いろんなマップはあります。あと１、２枚ぐらい、皆さんの頭を柔らかくするためにお見せいたします。例えば、これはうちの工学部の機械工学科。面白いですね。複数のマップを作ってきたんですけれども、そのうちの１枚がこれだったんです。つまりこのマップも１枚では表せなくて、特に高校生なんかに説明する時にはさっきみたいなものだとちょっと分かりにくいので、車の部品に例えて、このライトのところに英語と書いてありますけれども、世界を見渡すとか未来を見渡すとか説明していました。それからタイヤのところは数学だと。これは基礎とか物理も書いてありますけど、そういうことを意味していて、中は、これは開けると熱力学だとか、ここの出し物のところは制御工学、このように既にある既存のイメージに乗っける形でやると学生の記憶に残りやすいということです。

そして、車をつくった後は実験、実技があるわけです。そしてそこでオイル補給をして、今度は工学と社会という科目があります。これはJABEEなんかに対応する科目ですけども、それを経て卒業研究で卒業できると、こういうロードマップのようなイメージで作っているところもあります。ですからかなり柔軟に作っていただいたらいいと思います。

こちらは、ある大学の薬学なんですけれども、「すくすく育て、薬理の木」というふうに書いています。これは、バックに木があります。根っこの基礎の科目があって、それが幹になっていって花開くというような、そういうイメージですね。

最後に、注意していただきたいなと思う点だけ四つ申しあげて終わりにしたいと思います。

まず、構造ということを繰り返し申したいと思います。どういうふうにフレームワークというか枠組がそのカリキュラムにあるのかということをお考えになっていただきたいなと思うんですね。知識というものは構造化されていなければ記憶に残らないということが言われております。この構造を示すということが大事であります。

それから、学生は中身そのものよりも、なぜこの科目をこの順番で学ぶんだろうかという疑問を持っています。だからそれに答えられるように、それが一目で、ああそうか、こういうことになっていんだと。私が学んでいる科目はこういう位置づけだったんだということが分からないといけないわけです。

今お見せしませんでしたが、ひどいマップもあります。ぐちゃぐちゃになって全然分からない。やっぱり見てわからなければいけないわけです。

あと、興味深く見てもらえるということも大事です。きれいなんですけれどもなんか記憶に残らないというのがありますよね。いろんな工夫をこれは皆さんのアイデアで出していただきたいなと思います。色とか図も活用していただいたらいいかなと思いますね。

学生にとって自らの学習内容の把握に役立つか。これは２番と同じですけれども､今学んでいる科目､これはもう非常に虫の目で見ているわけですけれど、それが全体を俯瞰した時に、ああ、こういうふうになっているんだという、その両方が行ったり来たりできるような、そんなマップをオリジナリティーを皆さん発揮していただいて、お作りいただければと思います。

説 明 資 料

カリキュラム・マップ作成ワークショップ

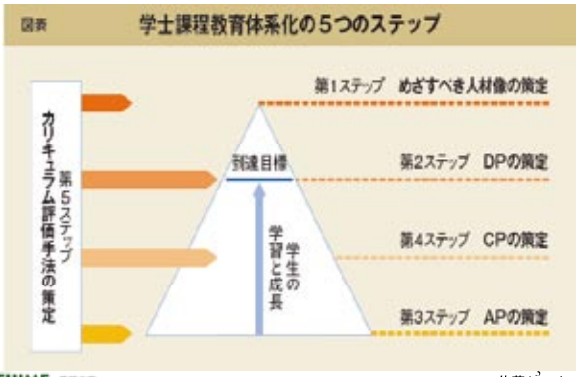
愛媛大学教育・学生支援機構　教育企画室
佐藤浩章

第1回国士舘大学FD研修会　2012.12.22

内　容

1. はじめに
2. カリキュラム・マップとは？
3. 学習体系化の構成原理
4. カリキュラム・マップの作成
5. 学習体系化に有効なグラフィック
6. カリキュラム・マップの評価

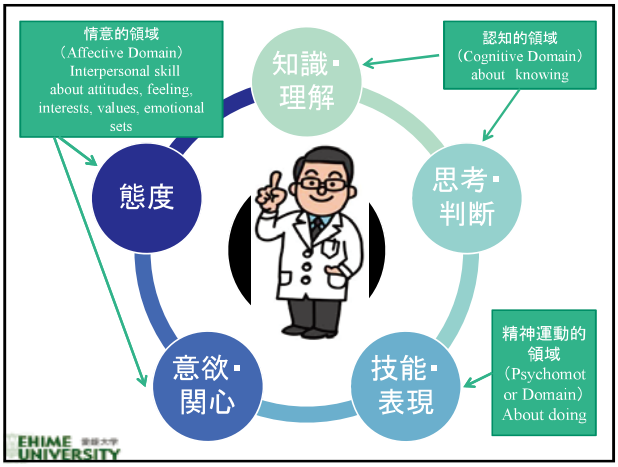
1．はじめに



佐藤（2010）

3つのポリシーに表現される能力間の関係

	知識・理解	思考・判断	技能・表現	意欲・関心	態度
D P			最終ゴール（総括的評価）		
C P			中間地点（形成的評価）		
A P			出発点（事前評価）		



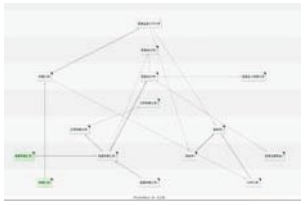
2．カリキュラム・マップとは何か？

- カリキュラムにおける授業科目間の系統性・関係性を図示化したフローチャートやダイアグラムのこと。
- 図示化は、情緒面、注意面、教示面、支援面、記憶面で学習者の内容理解を高める（関2007）
- コンセプト・マップ（概念地図法）と呼ばれている学習指導法（岸2000）をカリキュラムに応用したもの。コンセプト・マップは、初等・中等教育において、学習者の知識状態の確認をするために使用されており、高等教育においては、工学分野を中心にカリキュラムを表現する手法として使われている（佐藤1996）。またシラバスを図示化する手法として使われている例もある（グリゲナら2004、Nilson2007）。

2. カリキュラム・マップとは？

参考：Learning Path Finder
（三好ら2006）

- 特定の科目の関連科目がパソコン上で立体的に表現される。カリキュラムをマップ化した意欲的な試み。
- メリット：一度に二軸の関係性を理解できる。
- デメリット：複雑なものになり結果として理解しにくい場合も多い、電子メディアでしか見られない、教育課程全体を俯瞰できない。



http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/dist/LPF/

3. 学習体系化の構成原理

学習順序の原理

効果的な学習には原理に基づく適切な配置（デザイン）が重要。

簡単→複雑　既知→未知　結論→理由
個別→一般　具体的→抽象的
過去→現在→未来　全体→詳細→全体
E-T-A / E-A-T/ T-E-A
（**Experience, Awareness, Theory**）
Ruleg / Egrule
（**Rule, Example**）

（内田2005：78，Pike1989=2008:168）

4. カリキュラム・マップの作成

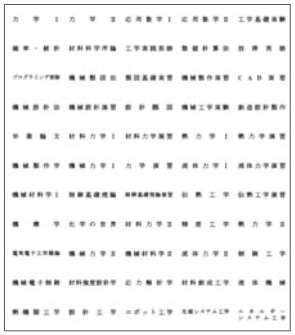
作成手順

1. 学部・学科に分かれて、簡易カリキュラム・マップを作成します。

2. 授業科目シールを付箋に張り付けてください。

3. 模造紙上に科目を時間軸で並べ、マーカーで関係を図示して下さい。

4. 完成後にポスター発表による相互批評を行います。



授業科目シール

4. カリキュラム・マップの作成

理学部数学コース

法文学部総合政策学科

学問分野の多様性を表現する簡易カリキュラム・マップ

5. 学習体系化に有効なグラフィック

学生の視点に立ち、学習過程をわかりやすく図示化

○ 図示化の視点（図形、矢印、色による仕分け）
- 履修時期
- 分野
- 基礎／応用、理論／実践

○ その他
- 必修科目・選択科目の別
- 最終的に身に付く能力（DP）、進路先

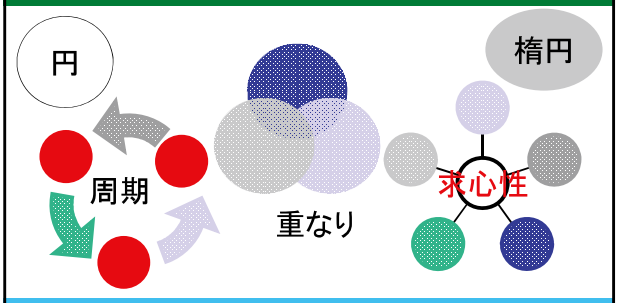
5. 学習体系化に有効なグラフィック

勝敗表の例

順位	チーム	A	B	C	D
1	D	○	○	△	＊
2	A	＊	○	○	●
3	C	●	△	＊	△
4	B	●	＊	△	●

上村ら『プラクティカル・プレゼンテーション』p.60

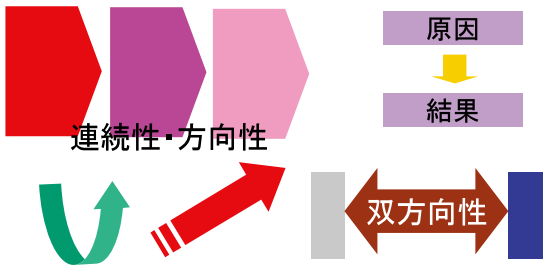
5. 学習体系化に有効なグラフィック



円・楕円は柔らかさ，循環，求心性，回転，周期を連想させる

池内ら『プレゼンテーション＋PowePoint2002』p.31　13

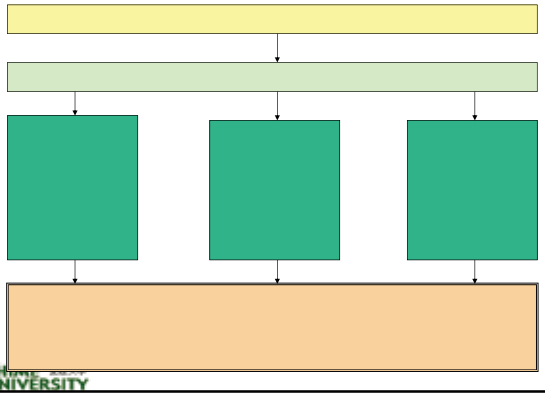
5. 学習体系化に有効なグラフィック



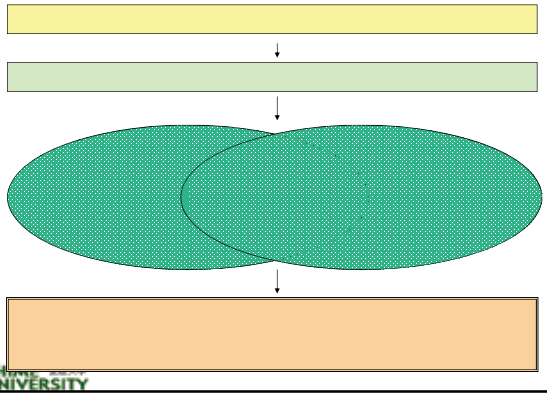
矢印は原因・結果，目的・手段，流れ等方向性・因果関係を示す

池内ら『プレゼンテーション＋PowePoint2002』p.31　14

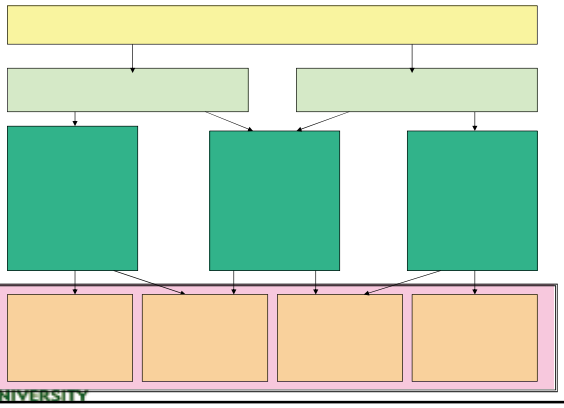
（例）基礎・応用から総合力（1）



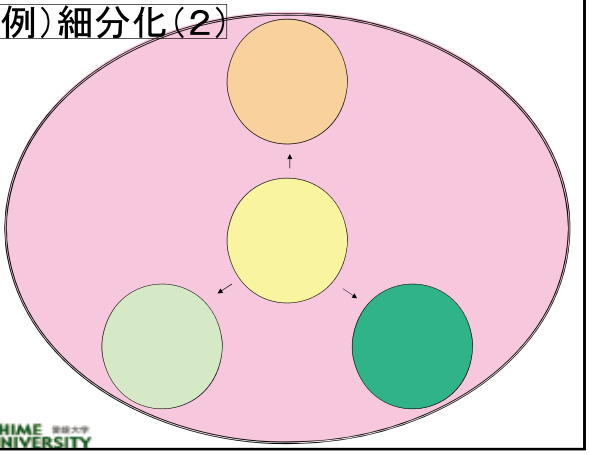
（例）基礎・応用から総合力（2）



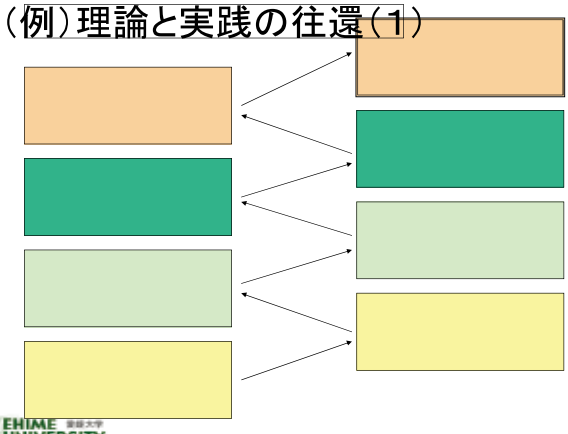
（例）細分化（1）



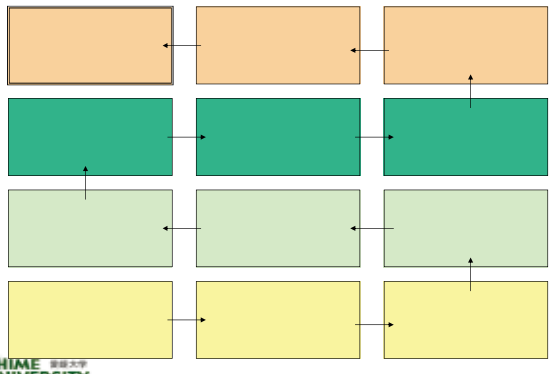
（例）細分化（2）



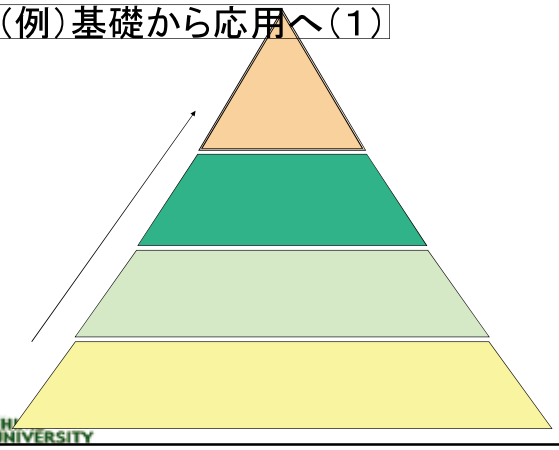
（例）理論と実践の往還（1）



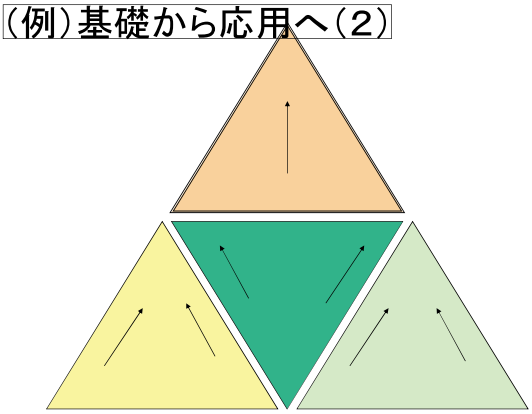
（例）理論と実践の往還（2）



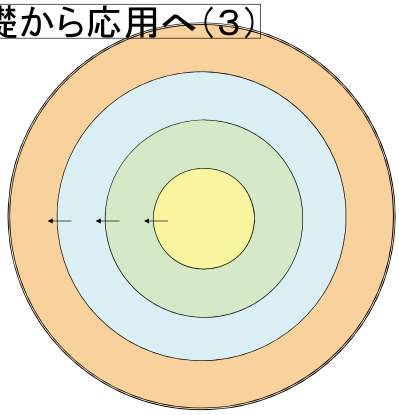
（例）基礎から応用へ（1）



（例）基礎から応用へ（2）

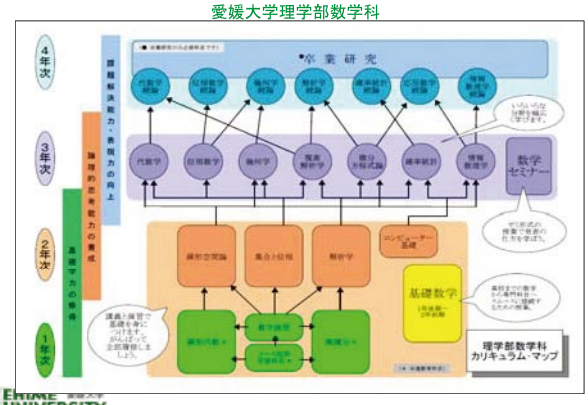


（例）基礎から応用へ（3）



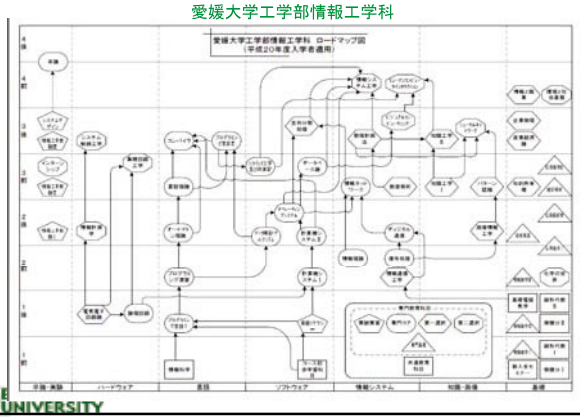
カリキュラム・マップの例

愛媛大学理学部数学科



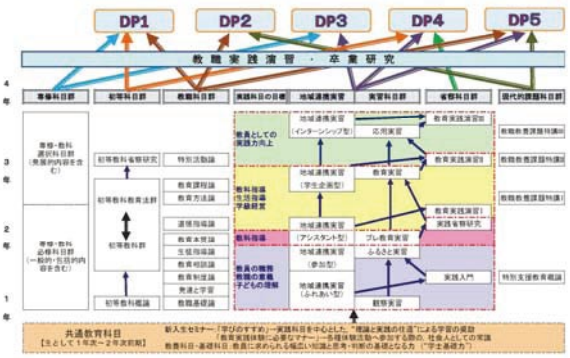
カリキュラム・マップの例

愛媛大学工学部情報工学科



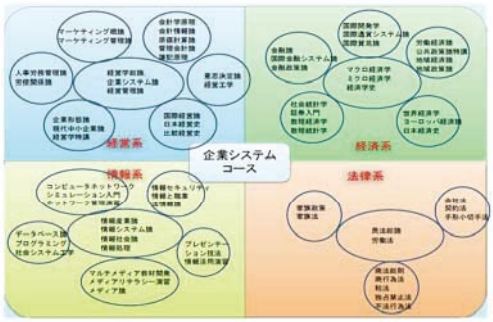
カリキュラム・マップの例

愛媛大学教育学部学校教育教員養成課程



カリキュラム・マップの例

愛媛大学法文学部総合政策学科企業システムコース



専門分野群の知識と文化（Becher1987）

専門分野群	知識特性	専門分野の文化特性
基礎自然科学（例：物理学）“hard-pure”	積み重ね型、原子論的（結晶構造・樹形）、普遍化・量・単純化を重視、発見・説明が目的	競争的、群生傾向、政治的に強固に組織化されている、論文数が多い、職務が行動を規定
人文科学（例：歴史学）と基礎社会科学（人類学等）“soft-pure”	反復型、ホリスティック（相互関連性、河川形）、特殊化・質・複雑化を重視、理解・解釈が目的	個別傾向、多元的、緩い組織構造、論文数が少ない、人が行動を規定
科学技術（例：機械工学）“hard-applied”	目的重視型、実用的（自然科学の知識を用いたノウハウ）、自然環境の統制を重視、製品・技術の開発が目的	起業家的、コスモポリタン、専門家の価値が最重要、特許が論文の代替物、役割が行動を規定
応用社会科学（例：教育学）“soft-applied”	機能重視型、実利的（人文科学の知識を用いたノウハウ、専門家の実践の向上、手順・手続きの開発が目的	外国に関心がある、立場の不確かさ、知的流行に支配される、コンサルティングにより論文数が少なめ、権力が行動を規定

28

6. カリキュラム・マップの評価

1. 全体で構造や流れがわかりやすいか
   （構造化されない知識は記憶に残らない）

2. 一目で授業科目同士の関係がわかるか
   （学生の「なぜこの科目を、この順番で学ぶのか」という問いに答える）

3. 興味深く見てもらえ、記憶にとどまりやすいか
   （色、図の活用によって記憶に残りやすくなる）

4. 学生にとって、自らの学習内容の把握に役立つか
   （「鳥の目」と「虫の目」のバランスを保つ）

29

第２部

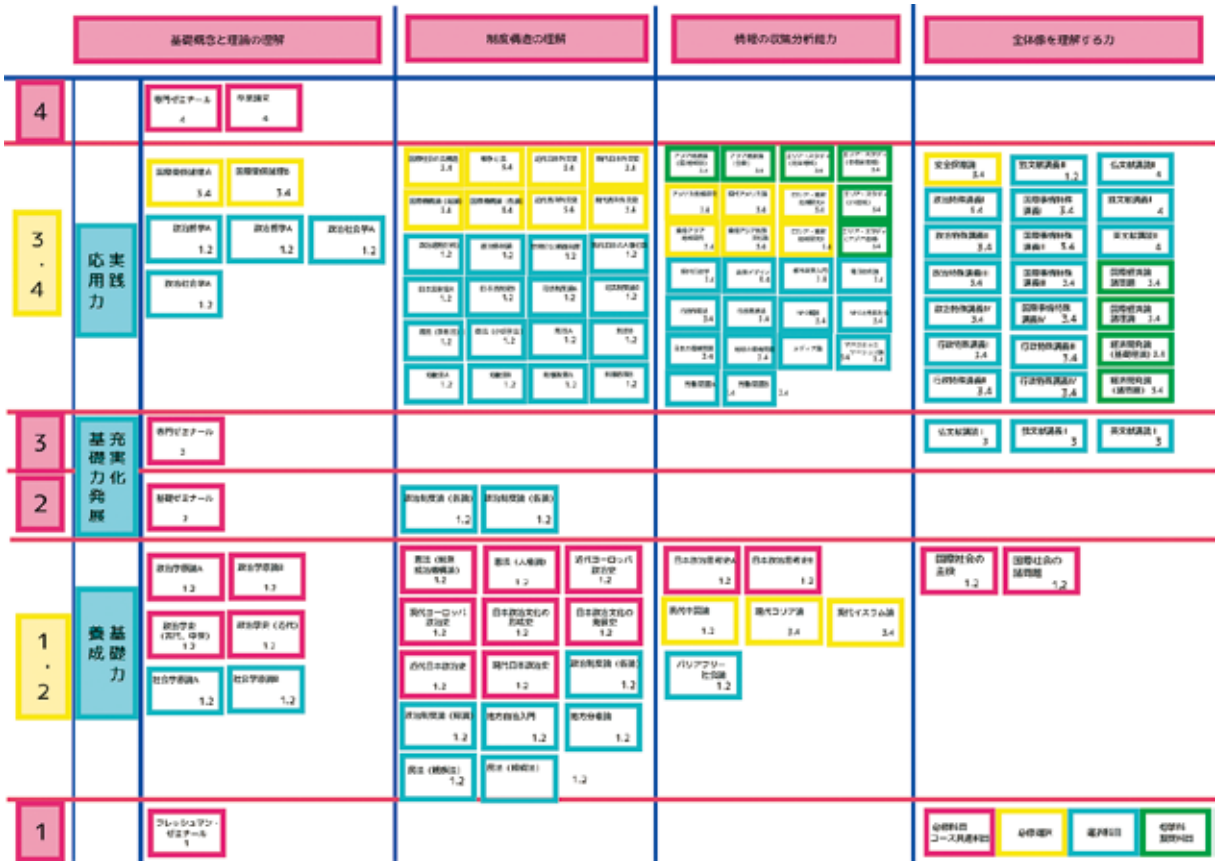
カリキュラムマップ作成

政経学部

政治学科

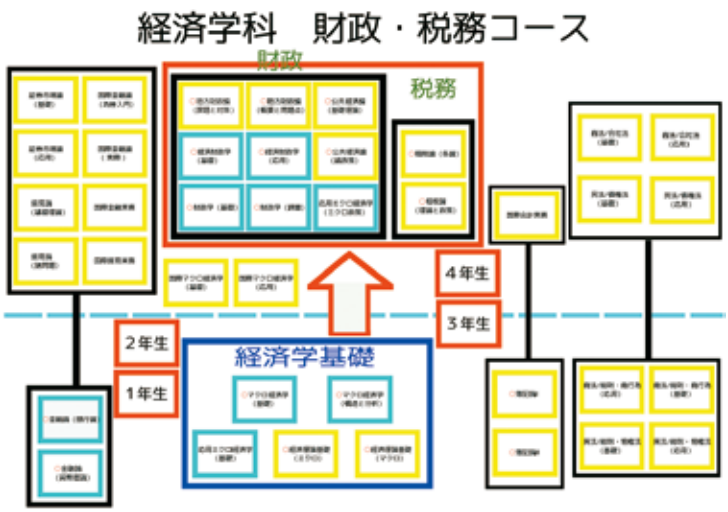
マップ講評

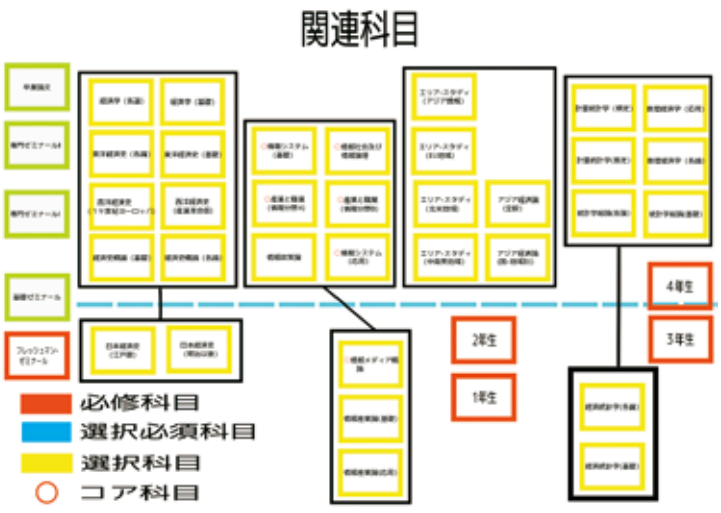
- 分類がわかりやすい。
- 科目が豊富で興味深く学べそう！
- とってみたい科目のイメージがつかみやすいと思った。
- 縦に分割した系統間の関係は？
- 60 単位はどうですか？
- 1･2 年次と 3･4 年次のカリキュラムのバランスが悪いように見えます。



政経学部

経済学科



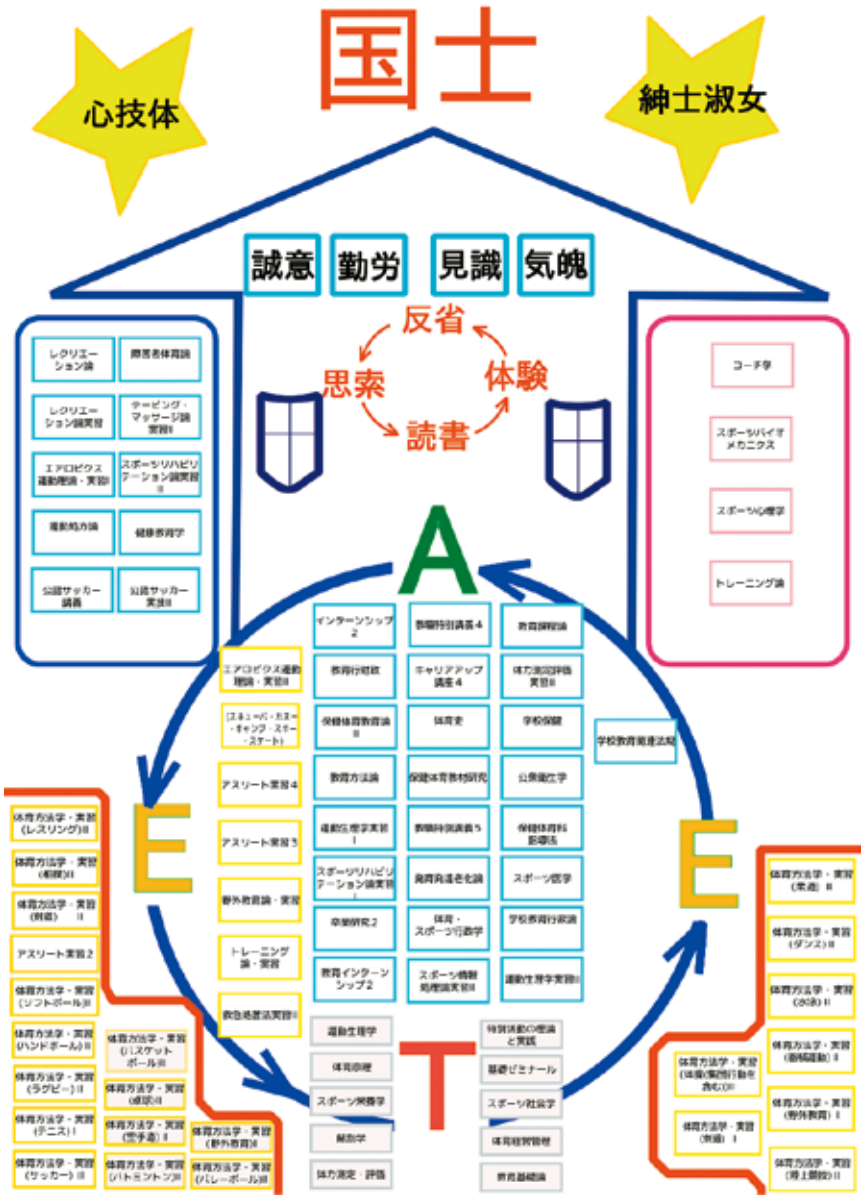


マップ講評

- ものすごくわかりやすい！
- コースの進み方がわかりやすい。
- 立体的に表現したい感じの並びです。
- コア科目と関連科目との関係を明確に。
- グループが細かく分かれすぎている。４年までどのような科目を履修したらよいのか見えてこない。
- DP がよくわからない。

体育学部

体育学科



マップ講評

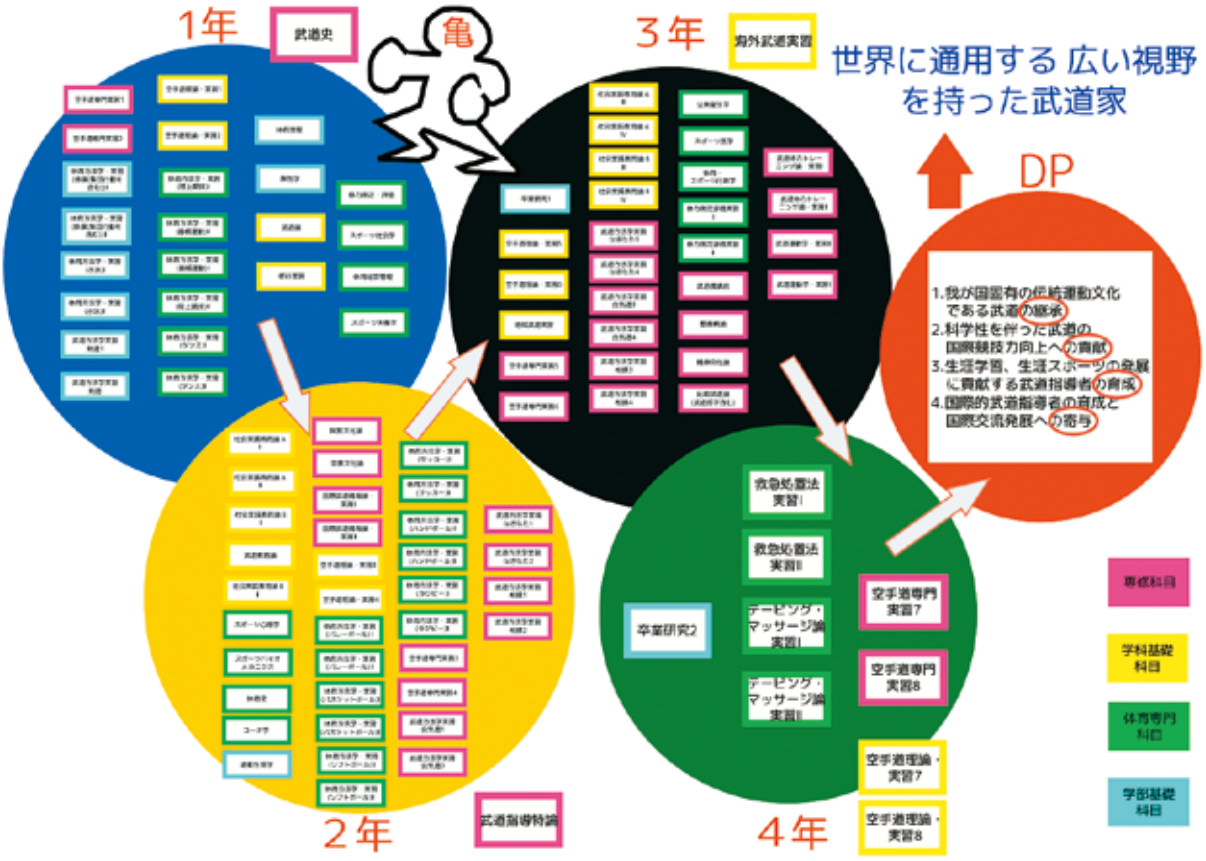
- A・E・T・Eを明示している点がgood！
- 前向きで地道な方法で感動である。
- 国士の養成が素晴らしい。
- インパクトのあるマップだが、よく説明を聞かないとわかりにくい。

体育学部

武道学科

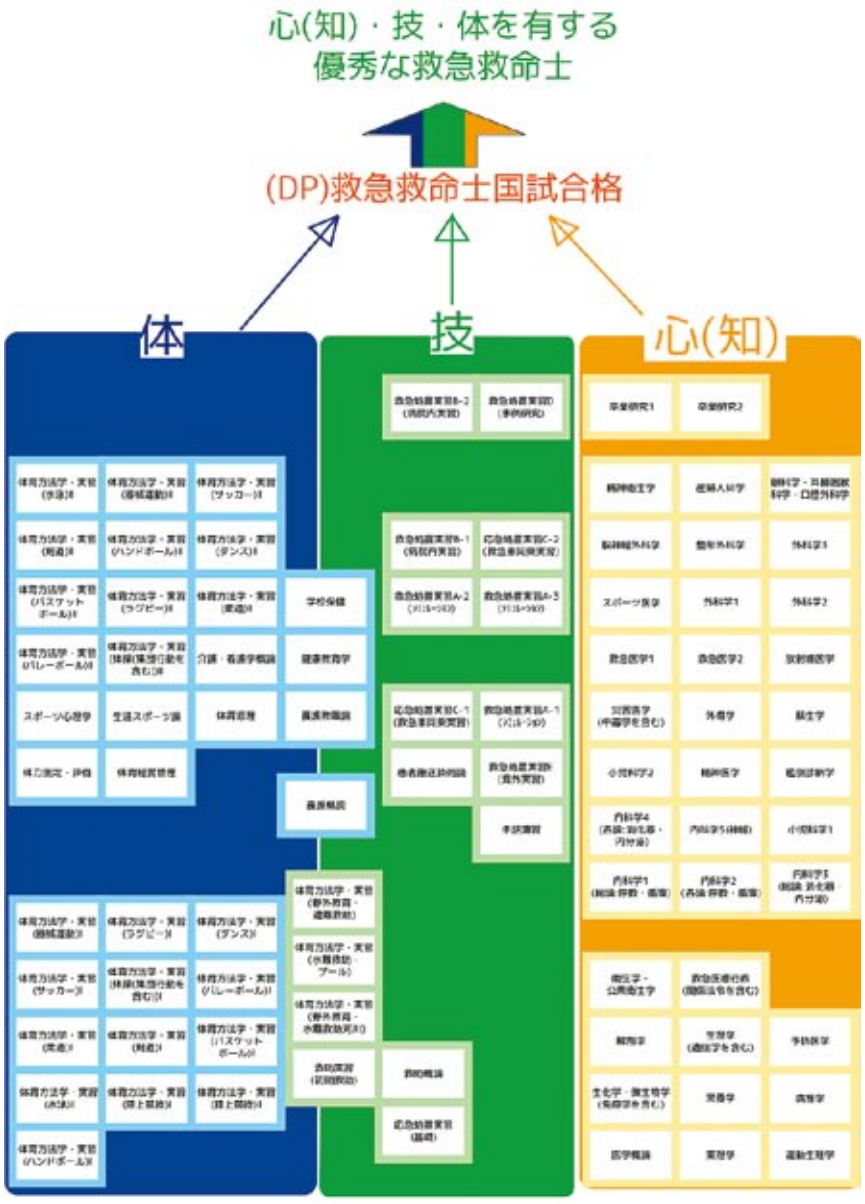
マップ講評

- 履修の順がわかりやすい。
- カリキュラム群が色分けしていてわかりやすい。見やすい。
- 夢がある。
- 五輪に例えて表しながらも科目毎の位置づけもされている。
- 五輪にたとえわかりやすく良いと思う。
- 各学年毎の到達目標があると、より明確になるのでは。
- 世界に通用する武道家になるのに、バレーやラグビーは必要なのですか？
- 学年内の必修・選択の別がわかりにくい。
- もう少し図を細分化してもよいのでは？



体育学部

スポーツ医科学科

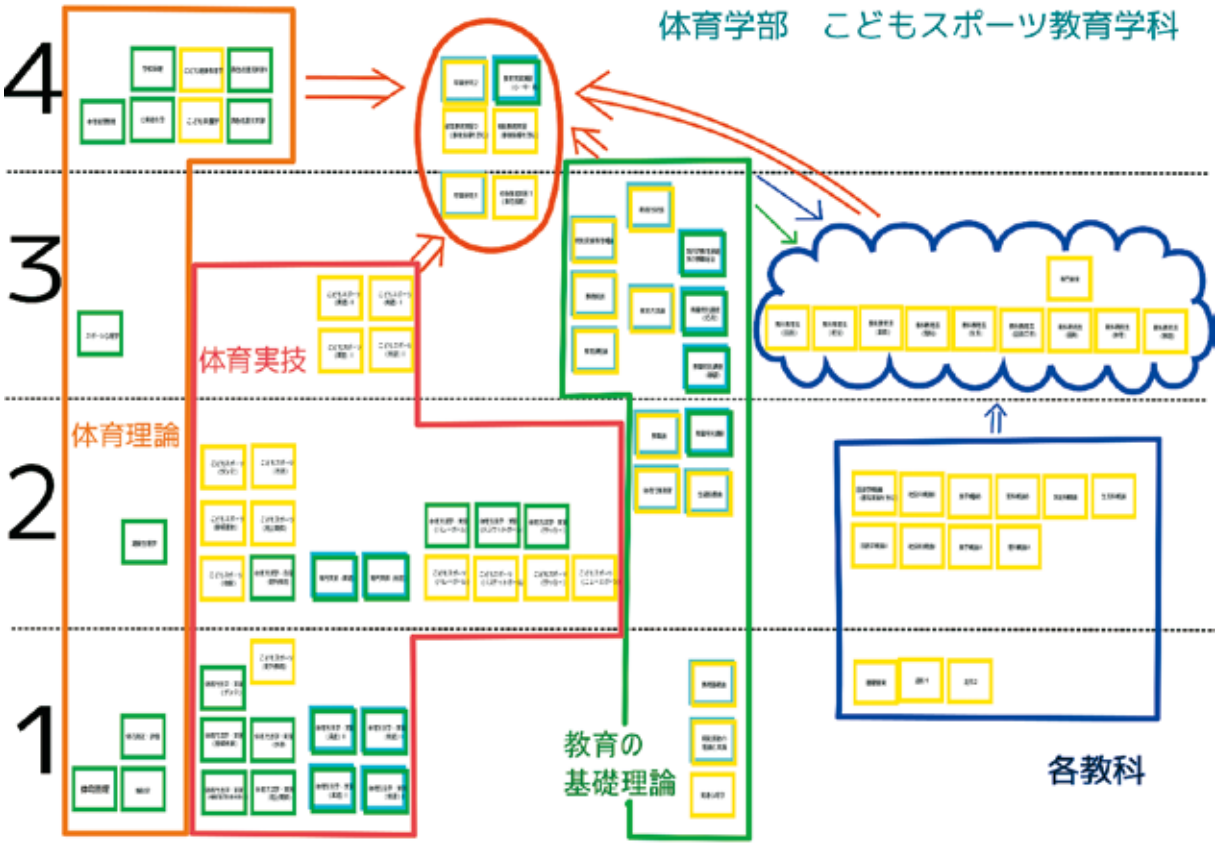


体育学部

こどもスポーツ教育学科

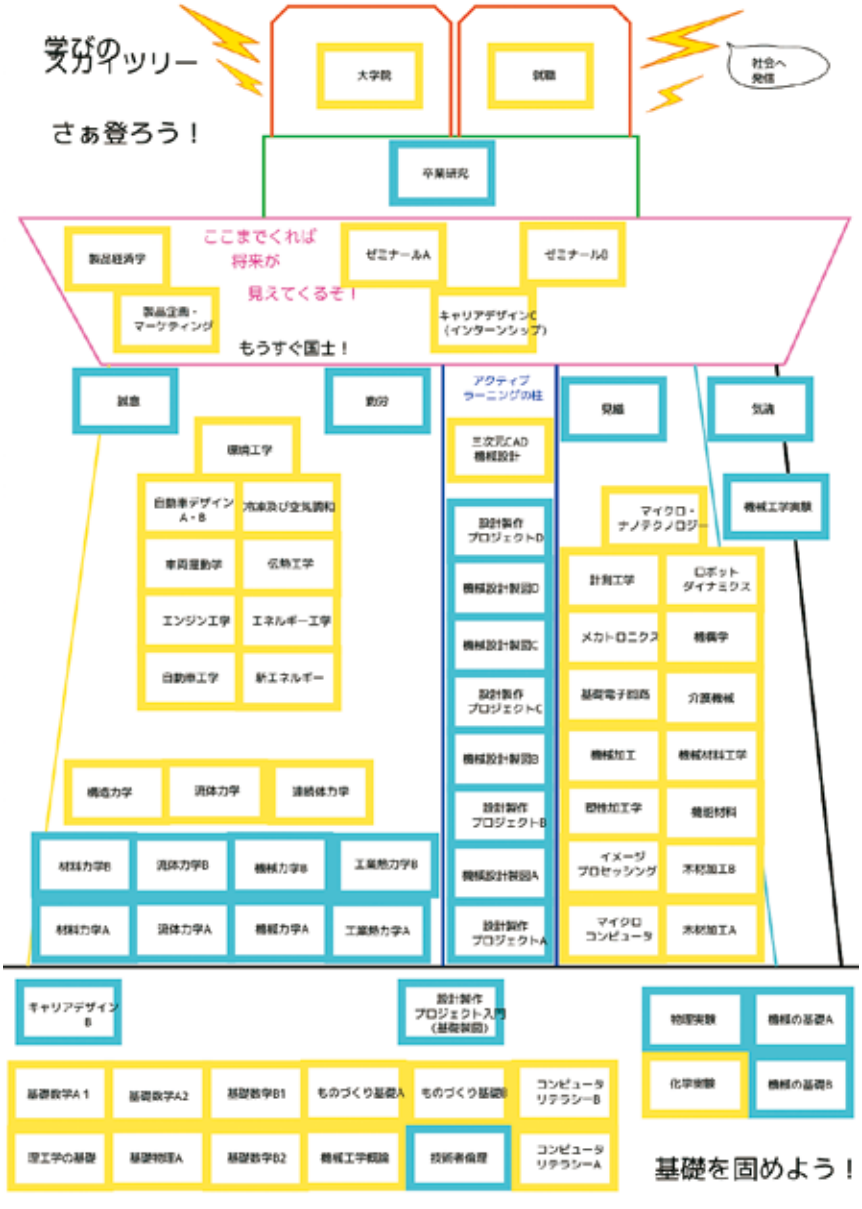
マップ講評

- 学校の先生を目指す学部だということが良く理解できた。
- 小・中・高の３校種の教員免許が取得できることがわかりやすい。
- 非常にわかりやすい図です。
- 全体の教育内容が、かなり明晰に伝わってきます‼
- 教員に特化したカリキュラムで、非常にスリムだと感じたが、教員を落ちた学生や他の進路を希望する学生へのフォローはどうなのか。



理工学部

理工学科　機械工学系

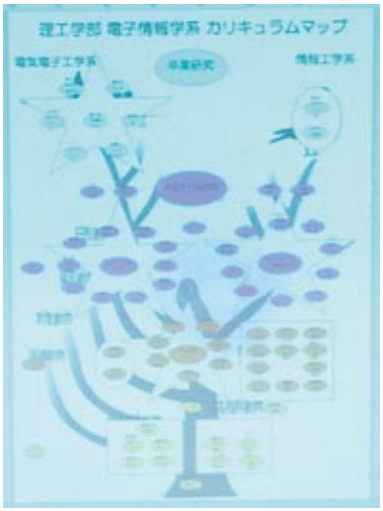


マップ講評

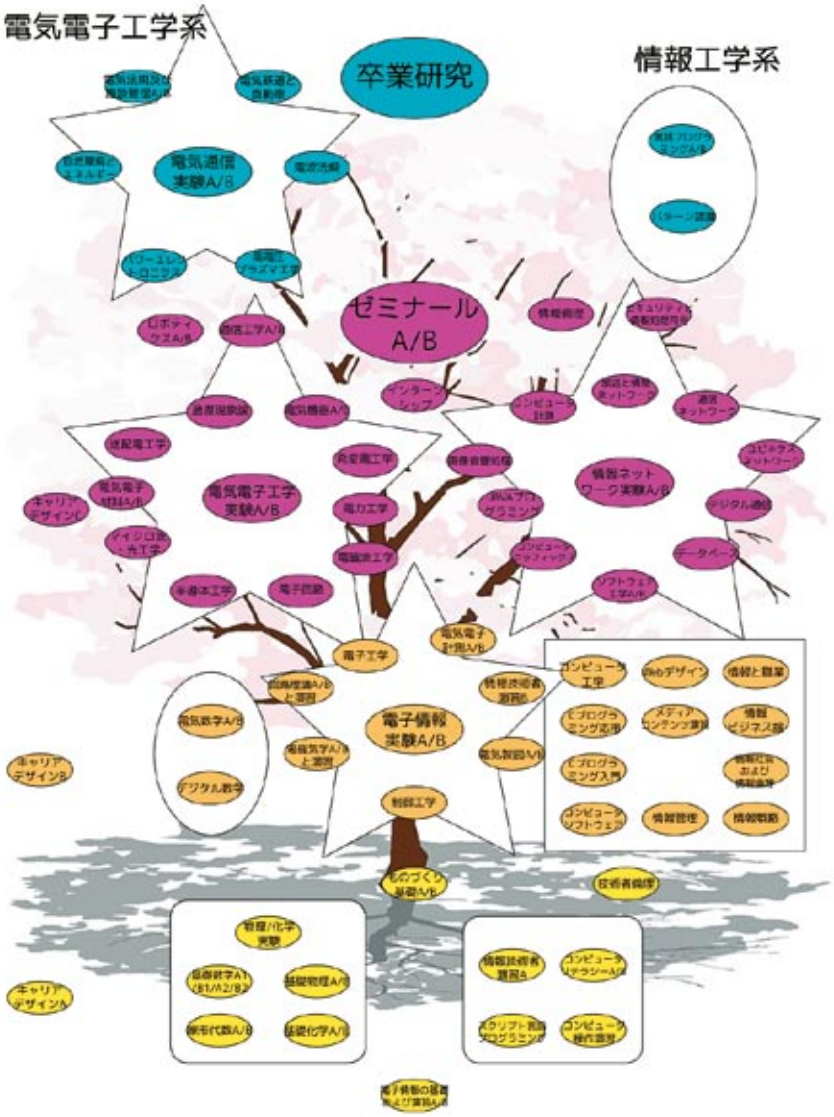
- 卒業研究に修練していくことをスカイツリーに例えていておもしろい。
- アクティブ・ラーニングの柱の指数は素晴らしい
- 東京スカイツリーに例え国士舘の４徳目とのマッチングが素晴らしい
- コンセプトがわかりやすい
- 「社会へ発信」がインパクトあり
- 目標設定がわかりやすい。基礎を固める大切さがよく理解できる。１年生からしっかり勉強していかなければその先がわからなくなることがわかりやすく表現されている。
- 目標管理がわかりやすかった。
- スカイツリーでわかりやすい。

理工学部

理工学科　電子情報学系



理工学部 電子情報学系 カリキュラムマップ



マップ講評

- 広がりがわかりやすい。
- シンプルでわかりやすかった。
- スゴイ‼わかりやすい！
- 幅が広がっていくことが視覚に訴えられる。

理工学部

理工学科　建築学系

マップ講評

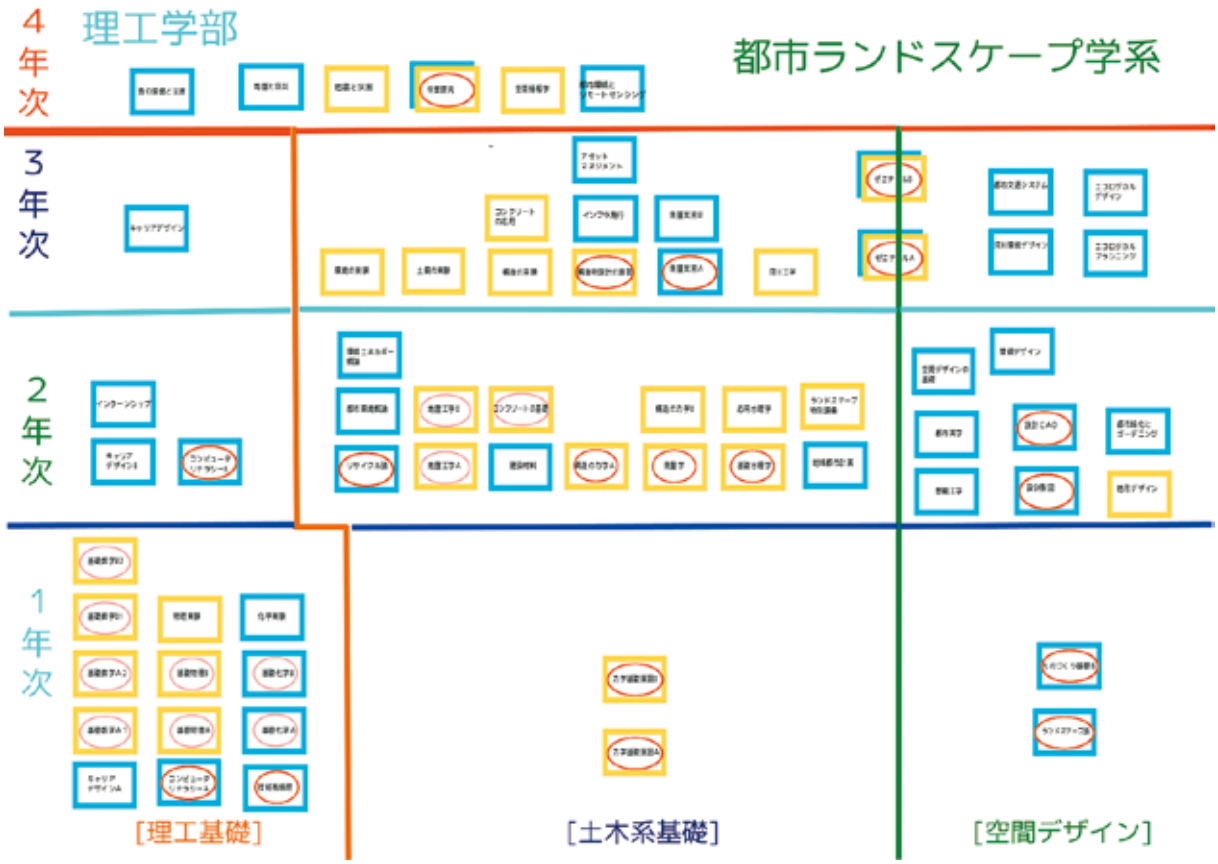
- シンプルかつ明確でわかりやすい
- シンプルでよい
- 資格との関連がわかるとなお良い
- 科目間のつながり、横のつながりがわからない

理工学部

理工学科　都市ランドスケープ学系

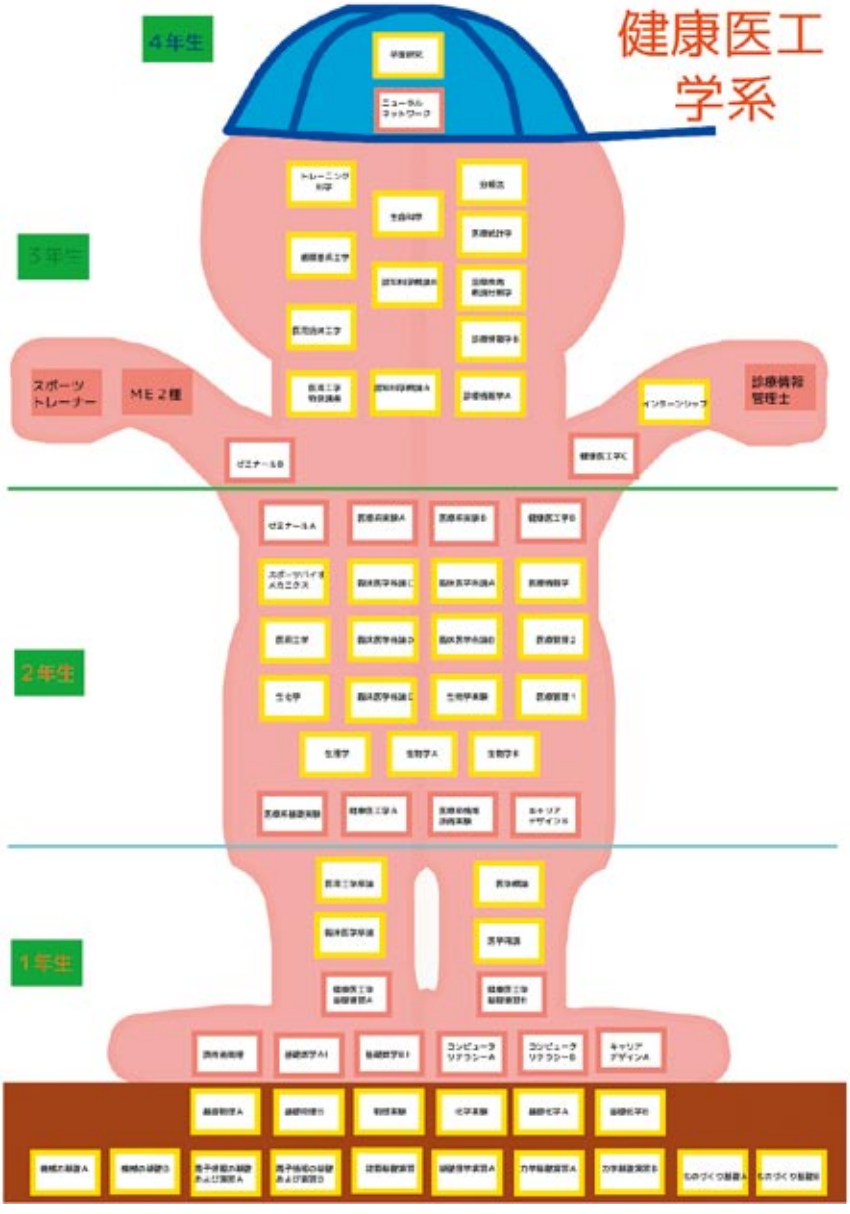
マップ講評

- 多様な学系のあり方 (科目・対象学生) が良くわかりました。
- 理工の学系の違い (都市ランドスケープ学系) について、とても良くわかりました。
- 学生が見たときに、どういう勉強をするのかわかりやすかったです。
- わかりやすいと思います。面白いと思います。
- 都市ランドスケープのイメージがわきました。
- すっきりして見やすいとおもいます。就職との関係が分かるともっと良いと思います。



理工学部

理工学科　健康医工学系

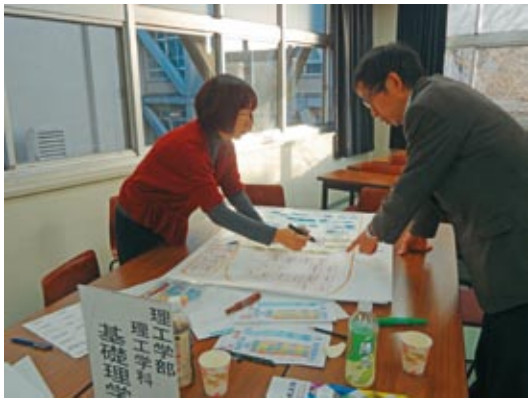


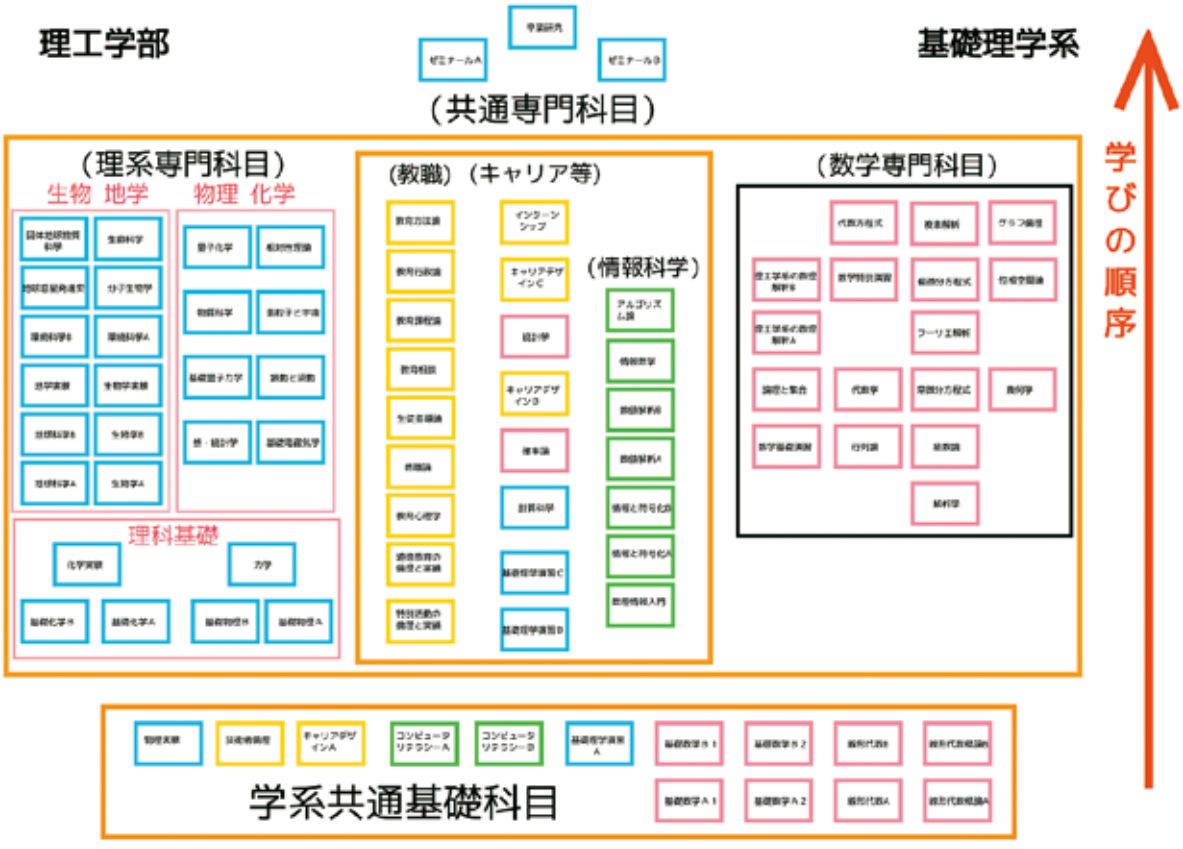
マップ講評

- 『人』であらわしたところが good ！わかりやすい。
- 資格との関連が良く分かるのが良い。
- 人の身体、手足の意味 (= 資格) とがわかる。
- ロボットに例えるところが理工学部らしく素晴らしい。
- 新入生に興味を持たせるアイディアがよく、それぞれのパーツに意味を持たせているところが素晴らしい。
- あらゆる点で大変奥深い、参考にするマップです。感動しました。
- わかりやすい。

理工学部

理工学科　基礎理学系



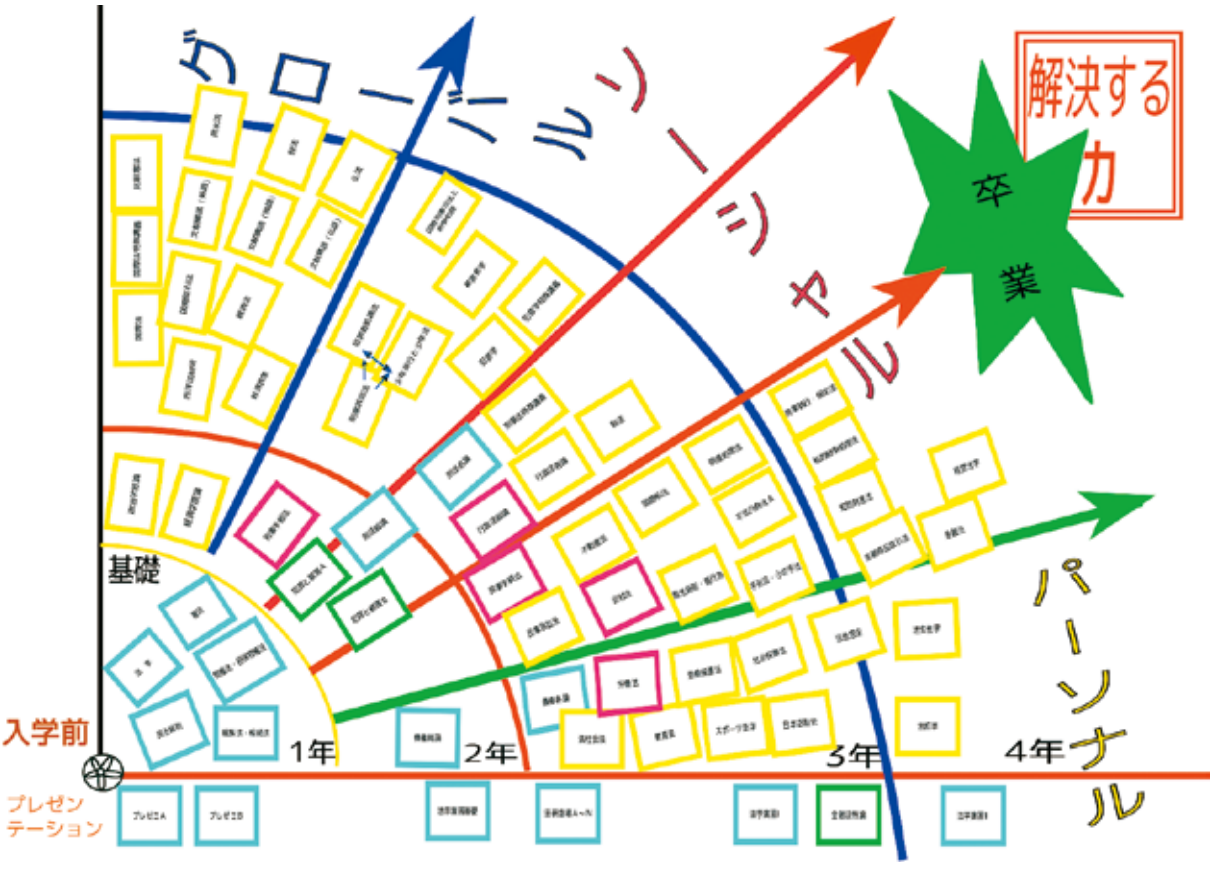


法学部

法律学科

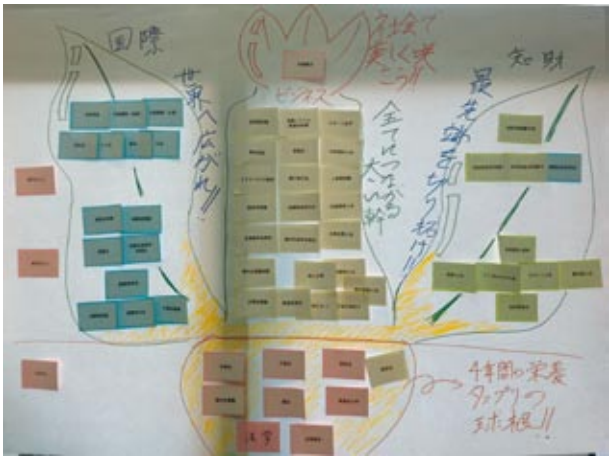
マップ講評

・　基礎をかためてから次とは限らない道が感じられました。



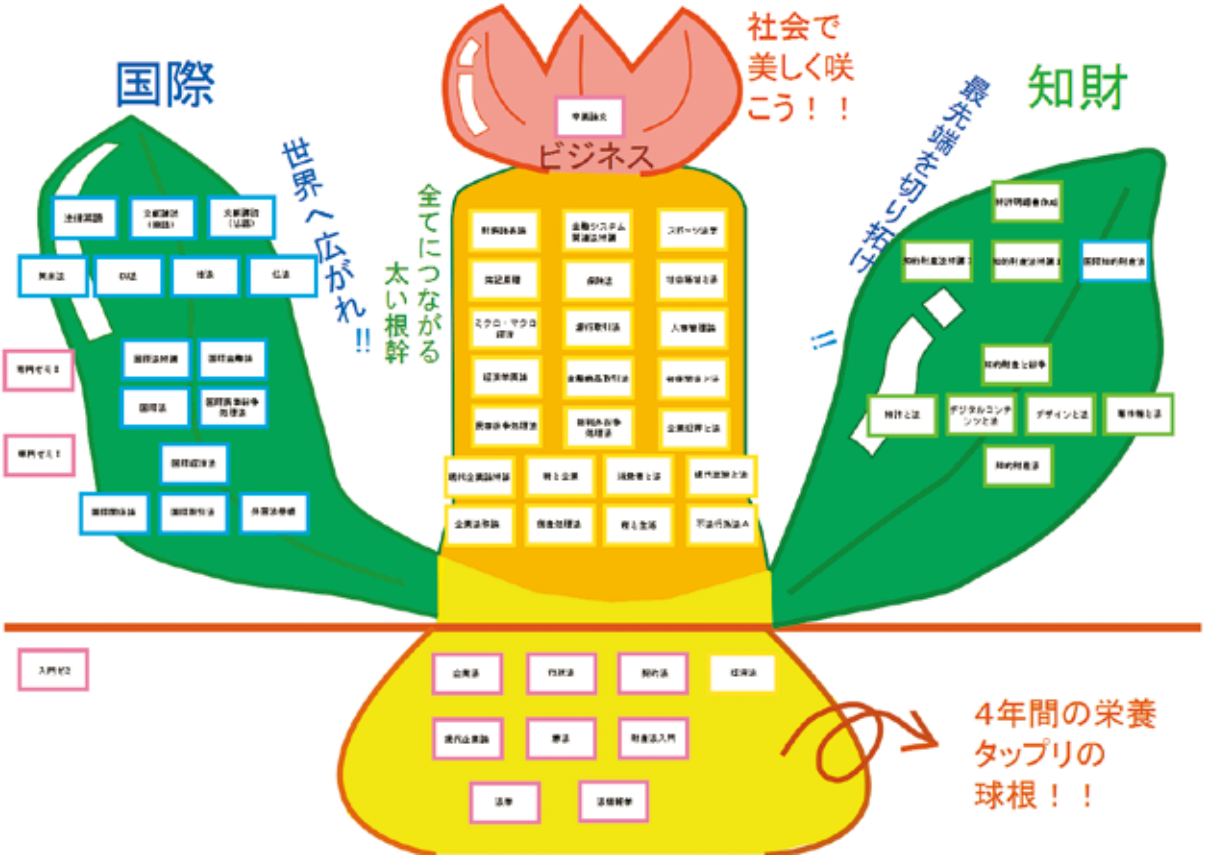
法学部

現代ビジネス法学科



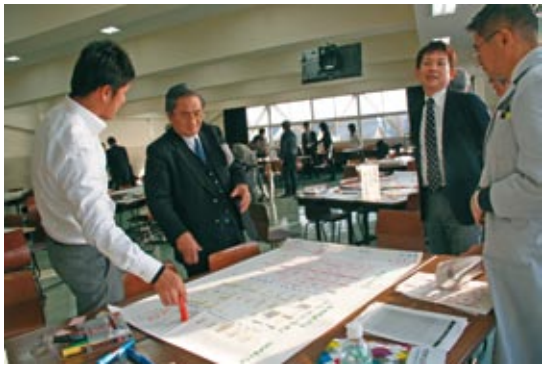
マップ講評

- 絵で表現されておりわかりやすい。
- 花にたとえるところが素晴らしい。
- デザインが good!



文学部

教育学科　教育学専攻



マップ講評

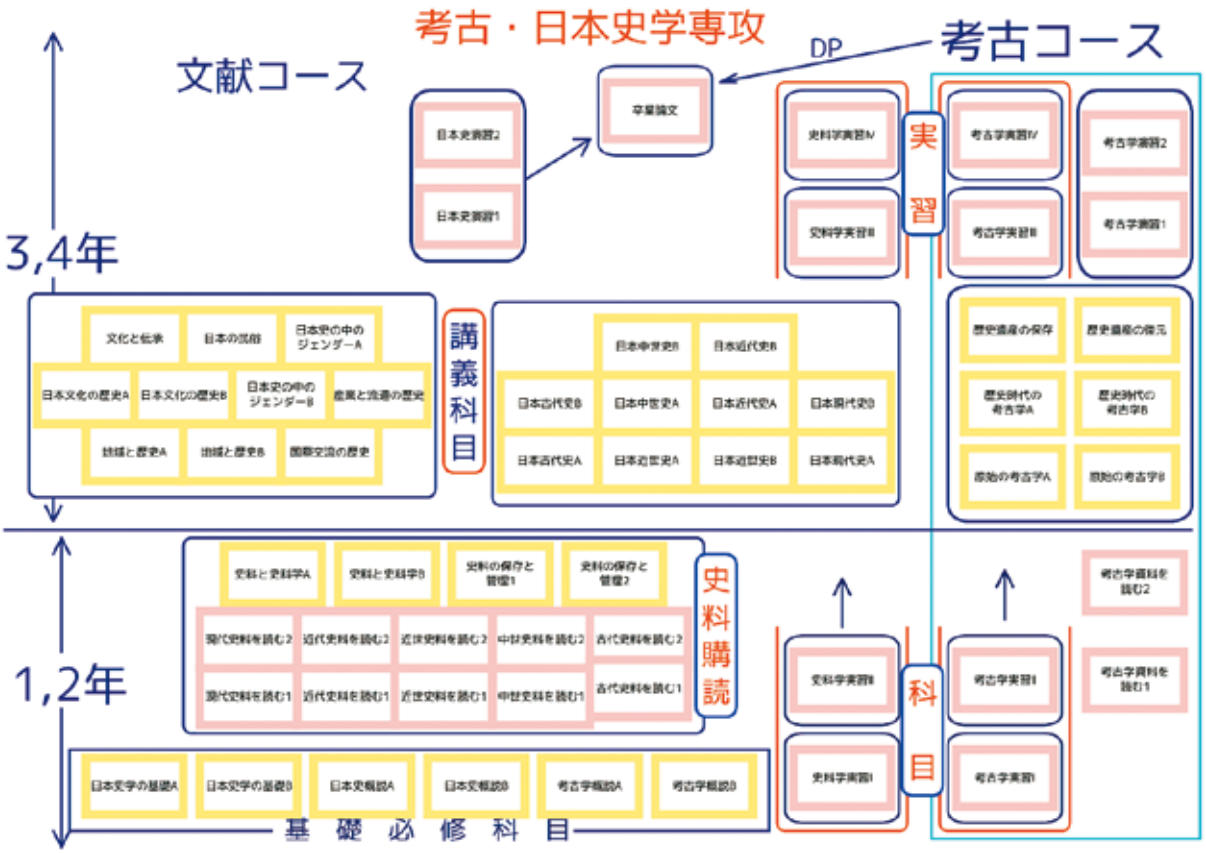
- 専門・教職にわかれていてわかりやすい。
- 幅広い教養が必要とされていることが良く分かりました！
- 教育学中心科目の特徴が分かりました。
- カリキュラムの組み方、科目間の関連を見直す機会になった。どの学部でも同じ問題に気づきました。

文学部

史学地理学科　考古・日本史学専攻

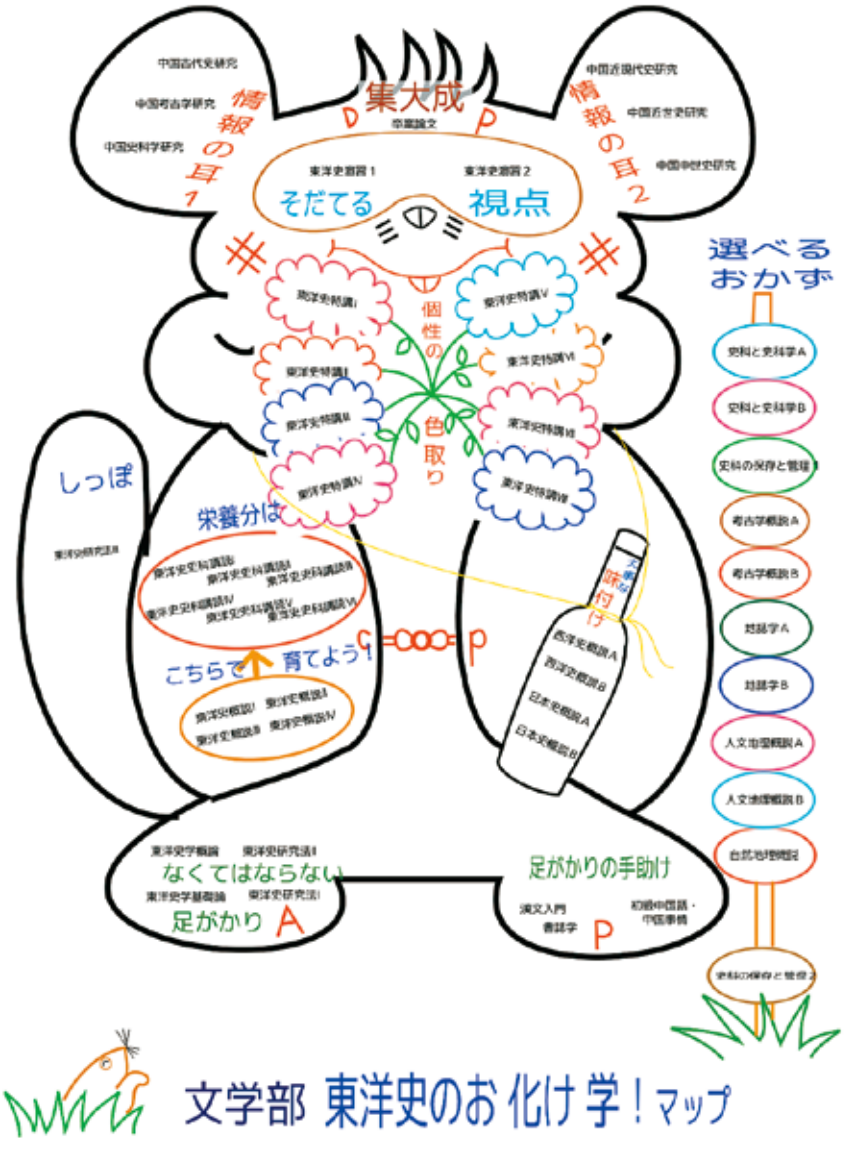
マップ講評

- コアが明瞭になれば良い。流れははっきり分かった。
- 日コースの特徴的コンテンツがわかりにくい。



文学部

史学地理学科　東洋史学専攻



マップ講評

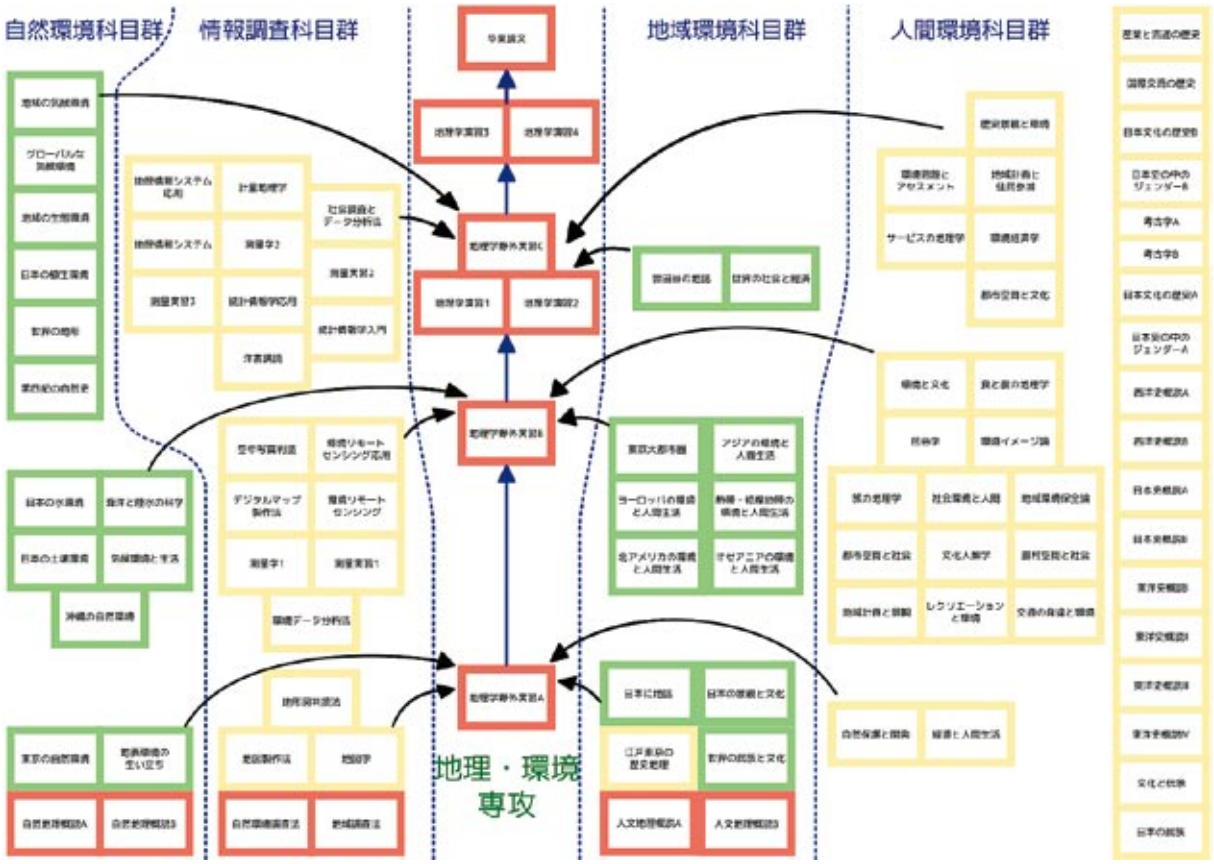
- 他になく絵がかわいくてわかりやすい。
- 親しみやすくて良い。
- 各見出しのネーミングがgood!
- 理解しやすい内容となっています。
- 選べるおかずに感動。
- 楽しい絵で心をキャッチ。
- 選べるおかずと書かれると美味しそうです。
- 学ぶことの”楽しさと学ぶことの必要さ”が伝わるCPだと思います。
- 数字表示で科目がわかりずらい。
- 科目の位置づけが少し分かり難い。
- 科目群で何をやるのかがわかりにくい。

文学部

史学地理学科　地理・環境専攻

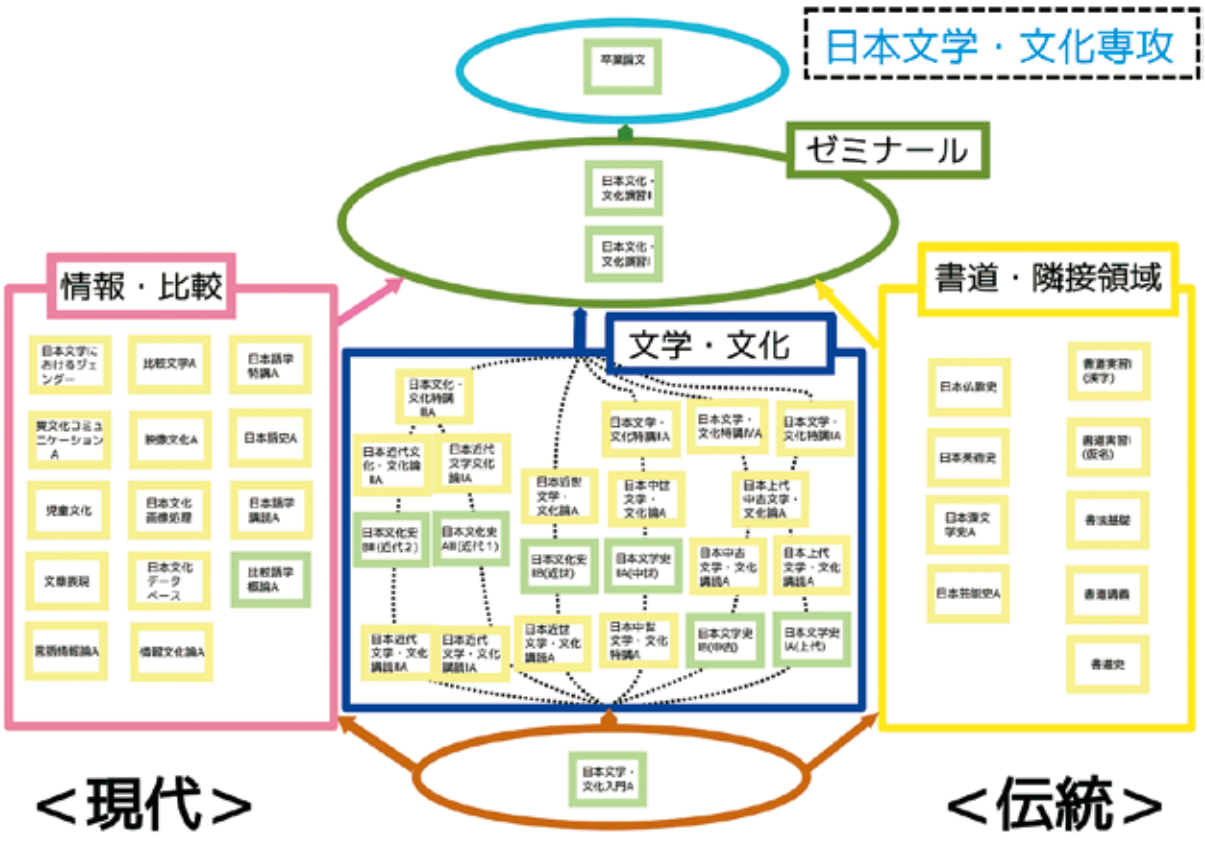
マップ講評

- 「実習」が就寝軸であることが明瞭でした。
- 広い一般教養が必要な分野のようで、数多い科目を良くまとめておられると思いました。
- 科目の群、区分がわかりやすいです。(科目設定から考えているように思えます)
- 科目の関連はわかりやすい。
- 卒業後の進路との関連。



文学部

文学科　日本文学・文化専攻

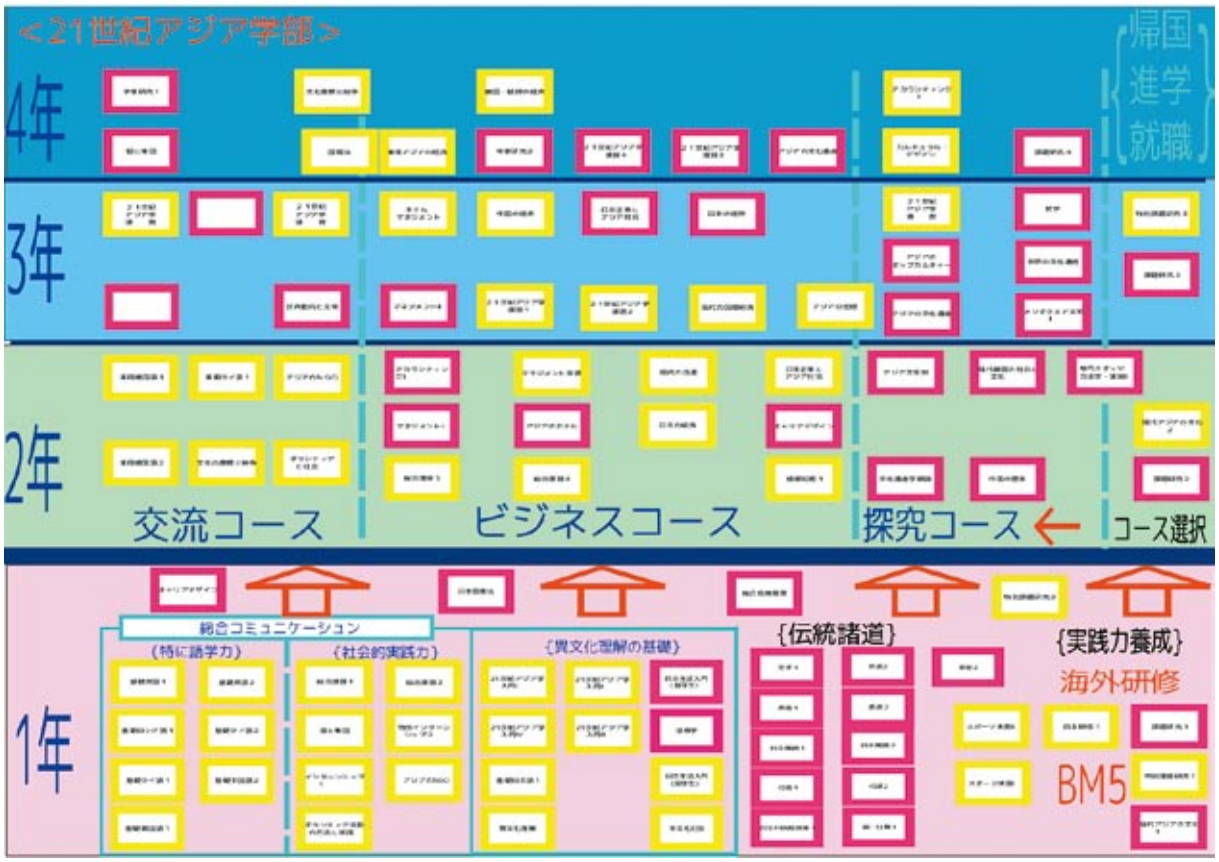


21 世紀アジア学部

21 世紀アジア学科

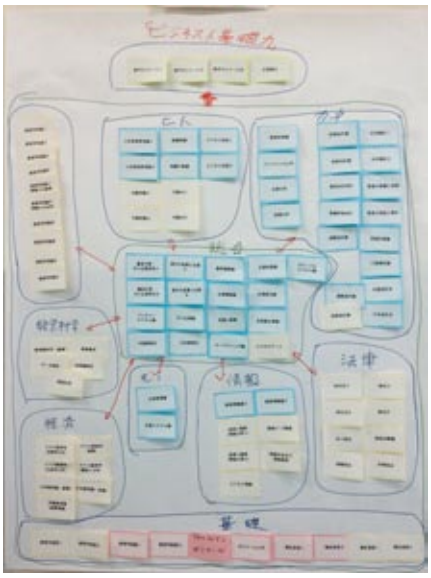
マップ講評

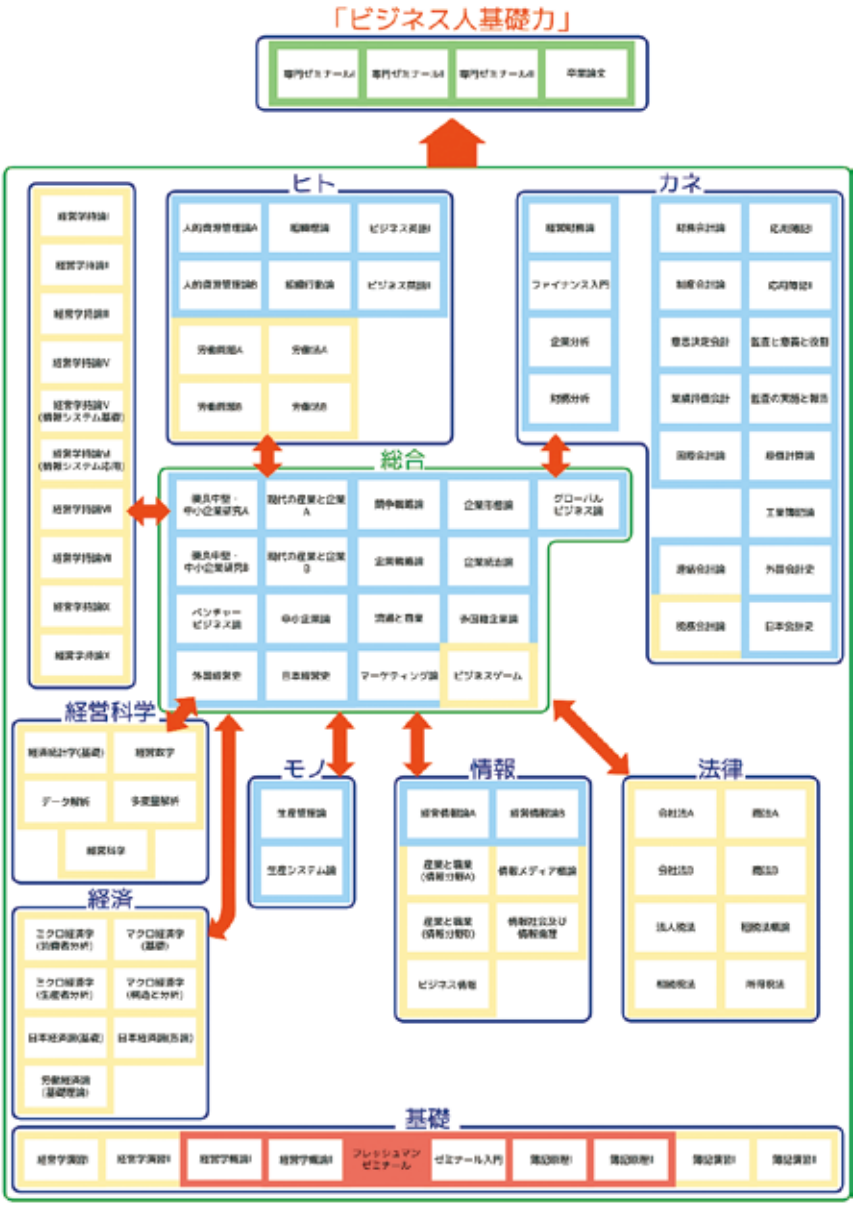
- 科目が多いが、分類されていてわかりやすい。
- 学問の体系はよく理解できた。図式としての見やすさに今ひとつの工夫を。
- １年次の科目選択の幅が広い。→１年生で「自分で」選べるか？



経営学部

経営学科





マップ講評

- すごい。
- フレッシュさを感じます。育てる人を学ばせるコンセプトがわかります。
- ３Ｄで作った方が良かった。
- ヒト・モノ・カネでモノが少ないのでは？
- 民法がないのがへん。時系列で履修する流れが分かりづらい。

全体風景

講　評

佐藤　浩章氏

講評というような偉そうなことは何もできませんので、コメントさせていただこうと思います。先ほど、「国士舘の特徴はありますか？」という質問を受けました。一つは、この体育学科が典型なんですけれども、最終的に国士という、これはほかの大学はできないですよね（笑）。つまり建学の精神というのにカリキュラムを結び付けることは本当に大変なんですよ、ほかの大学は。体育学部だからというのもあるのかもしれませんが、最終的な目標として国士が出てくる。職業でもない、DP でもなくて国士というのが非常に分かりやすいし、皆さんの評判も良かったんじゃないかなと思うんです。見せ方の問題としては非常にクリアに、科目の配置もそうですし、そこで何を重視しているのかという教育哲学が非常に表れているもので、私は非常にいいなと思って見ておりました。これが一つ特徴ですね。

そうすると逆に言うと、ほかの学部の中でも、あまり建学の精神をダイレクトに言ってもあまり支持されないのかもしれませんが、もう少し工夫されると、その辺のカラーが出せるんじゃないかなと思います。文学部とかも結びつけられそうかなという気もしますし、これは国士舘の何々学部ですよというのがより特徴として出て、大学のカラーとして売りになるのかなという印象を受けました。

総じて非常に皆さん熱心にやっていただきましたので、いろんなパターンが出てきて、体をベースにして作られた健康医工学だとか、あるいはは木で表現したり、非常にユニークなマップもできましたので、ぜひまたこれを活用していただきたいと思います。どういうふうに活用するかということなんですが、まず、吟味しなければならない部分がいろいろあります。当然ご自身の学部・学科にお持ち帰りになられて、同僚の方とまたこのワークをやっていただければと思います。今日研修作業を行った皆さんがどういう感想をお持ちになったか分かりませんが、比較的マップ作成研修は好評なんです。これは学問論で、教育という話と研究と一緒になっていますよね。皆さんの学問、研究分野そのものの話をしているので、だから熱も入るし面白いし、ほかの人たちの学問の構造を見るというのはすごく研究者としては知的好奇心をくすぐられるような作業だったんじゃないかなと思うんです。ですから学部・学科で同僚の方とこういう話をされても､そんなに抵抗なくやっていただけるのではないかなと思いますし、叩き台は、今日できましたので是非再活用して下さい。

学生にこれを見てもらってもいいですし、学生と一緒に、特に４年生を掴まえて､「４年間を振り返ってあなたはうちの学部・学科のカリキュラムをどういうふうに並べるか」というのを学生だけでこれを例えば作らせてみると。皆さんと全然違う構造ができるかもしれません。皆さんにとってはこれはそんなに重要ではないと思っている科目が、学生にとってはその学科のかなりコアになっている授業として認識されている場合もありますので、その辺り、学生の認識と教員の認識を比べるという作業も非常に面白いかなと思います。

そういうプロセスを経てマップを作られた場合に、うちの大学で言うと、高校回りですね。先生方が高校を回る時にこのマップを使いながら、いわばセールスする時の材料にも使いやすくなったということで、オープンキャンパスの出張講義の際に見せていくと、特に高校生、それから保護者の方には非常に分かりやすいんじゃないかなと思います。

それから対学生に関して言うと、私はいつもこのワークをやる時に言うんですが、例えば学部の玄

関に、業者にデザインしてもらって、しっかりしたものを作って貼っておくと。そうすると学生が毎朝大学に来ると、「あ、今日はこの授業を取るんだ」ということを確認しながら履修するような、鳥の目を見てから虫の目に入っていくというような使い方もできるかなと考えます。あるいは、手のひらサイズくらいの小さなものにして配っておくとか、いろいろな配布物の中にこのマップを入れこんでいくとか。これは学習効果上も非常に効果的ではないかと思います。

そういう点で言うと、ここに先ほど国士の話をしましたけれども、このマップの中にやっぱりゴールが明確に出ていると、より学生のモチベーションは高まるかなと思います。ワークの途中でも申しあげましたが、ディプロマポリシーなり具体的な職業であったり、そういったものがこのマップの中に出ているとさらにモチベーションを高めるものになるのではないかなという気がいたします。

これでお絵かきして終わりというのはもったいないので、皆さん方の英知の結晶です。ご活用いただいて、ホームページ等に掲載させたり、二次的活用をしていただきたいと思います。

閉会のことば

FD 委員会副委員長
加藤　直隆

本日は大変お疲れ様でした。

２年前、佐藤先生に「３つのポリシー策定の取組」というのでご講演いただきました。本当に分かりやすく感動して興奮したことが、今懐かしく思い起こされます。

その際、10 階のラウンジで佐藤先生と少しお話した時、「でも、こうした講演会というのは、ＦＤにとってはそんなに素晴らしいものではなく、作業をしていくことが重要なんだ」と言われました。あれから２年経ってようやく本日、国士舘大学もこのような研修会を実施することができました。

今日のこの興奮、本当に素晴らしかったですね。和気あいあいとなりながら、こんなにカリキュラムについて語り合った時間はなかったと思います。この今日のさまざまな興奮を学部に持ち帰って、今日のシミュレーションを学部・学科の中でもう一度やってみたい。そして、作り上げたい。あるべき姿を作り出してみたいと思います。

それは何故か。このカリキュラムマップが、社会の中に本学の学園の教育力というもの、教育の現実というものを発信していくものであると同時に、学生諸君の履修、主体的な学習を導くための大きな指針、ツールとなることを我々は今日しっかり自覚したからです。そういった意味で、本日の作業は本当に素晴らしい第一歩であったと思っております。

今日は三浦学長も最後までお付き合いいただき、我々は非常に嬉しく思っております。今後は、学長・ＦＤ委員会が本学の先頭に立って、本日参画していただきました先生方とともに、着実な歩みを続けていきたいと思います。

なお、このマップはＦＤ委員会のほうで集めさせていただき、今後の作業の素材にしていきたいと思います。皆様今日はご参加いただきありがとうございました。

佐藤先生、本当にありがとうございました。最後に今一度、お礼の拍手をお願いします。

国士舘大学 第1回FD研修会
『カリキュラムの可視化マップ作成研修会』

平成25年3月14日　発行

編　集　者　　国士舘大学FD委員会
発　行　者　　国士舘大学FD推進室
〒154-8515　東京都世田谷区世田谷4丁目28番1号
電　話　03(5481)5386
印　刷　所　　株式会社リョーワ印刷
〒151-0073　東京都渋谷区笹塚3-55-8
電　話　03(3378)4180 代表

本冊子は、平成24年12月22日に開催された国士舘大学第1回FD研修会を録音したものを一部加筆・修正しました。